

法学研究科 法学研究科 (2013年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■法学系科目 ■専門科目	知的財産法I	集中	1	2	1
	木村 友久	1年			
■政策科学系科目 ■専門科目	現代政治論I	集中	1	2	2
	松尾 哲也	1年			
	都市環境論I	2学期	1	2	3
	中園 哲	1年			
	NPO・社会起業論I	1学期	1	2	4
	永田 賢介	1年			
	都市計画論I	1学期	1	2	5
	山脇 直祐	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専攻共通科目	法政総合演習	1学期	1	2	6
	法学研究科担当教員	1年			
■法学系科目 ■専門基礎科目	法律文献調査	1学期	1	2	7
	法律学科教員	1年			
■専門科目	憲法AI	1学期	1	2	
	休講	1年			
	憲法AII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	憲法BI	1学期	1	2	8
	中村 英樹	1年			
	憲法BII	2学期	1	2	9
	中村 英樹	1年			
	行政法AI	1学期	1	2	
	休講	1年			
	行政法AII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	行政法BI	2学期	1	2	10
	福重 さと子	1年			
	行政法BII	2学期	1	2	11
	福重 さと子	1年			
	行政法CI	1学期	1	2	
	休講	1年			
	行政法CII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民法AI	1学期	1	2	12
	矢澤 久純	1年			
	民法AII	1学期	1	2	13
	矢澤 久純	1年			
	民法BI	1学期	1	2	14
	福本 忍	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律学系科目 ■専門科目	民法BII 福本 忍	2学期	1	2	15
		1年			
	民法CI 小野 憲昭	1学期	1	2	16
		1年			
	民法CII 小野 憲昭	2学期	1	2	17
		1年			
	民法DI 休講	1学期	1	2	
		1年			
	民法DII 休講	2学期	1	2	
		1年			
	商法AI 今泉 恵子	1学期	1	2	18
		1年			
	商法AII 今泉 恵子	2学期	1	2	19
		1年			
	商法BI 高橋 衛	1学期	1	2	20
		1年			
	商法BII 高橋 衛	2学期	1	2	21
		1年			
	民事訴訟法AI 小池 順一	1学期	1	2	22
		1年			
民事訴訟法AII 小池 順一	2学期	1	2	23	
	1年				
民事訴訟法BII 休講	1学期	1	2		
	1年				
刑法AI 土井 和重	1学期	1	2	24	
	1年				
刑法AII 土井 和重	2学期	1	2	25	
	1年				
刑法BI 大杉 一之	1学期	1	2	26	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■法律学系科目 ■専門科目	刑法BII 大杉 一之	2学期	1	2	27
		1年			
	刑事訴訟法I 休講	1学期	1	2	
		1年			
	刑事訴訟法II 休講	2学期	1	2	
		1年			
	刑事学I 朴 元奎	1学期	1	2	28
		1年			
	刑事学II 朴 元奎	2学期	1	2	29
		1年			
	労働法I 石田 信平	1学期	1	2	30
		1年			
	労働法II 石田 信平	1学期	1	2	31
		1年			
	社会保障法I 津田 小百合	1学期	1	2	32
		1年			
	社会保障法II 津田 小百合	2学期	1	2	33
		1年			
	国際法I 二宮 正人	1学期	1	2	34
		1年			
国際法II 二宮 正人	2学期	1	2	35	
	1年				
日本法制史I 山口 亮介	1学期	1	2	36	
	1年				
日本法制史II 山口 亮介	2学期	1	2	37	
	1年				
法哲学I 重松 博之	1学期	1	2	38	
	1年				
法哲学II 重松 博之	2学期	1	2	39	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律学系科目 ■専門科目	法律実務特講I 奥田・阿野・未廣	1学期	1	2	40
		1年			
■特別研究科目	憲法特別研究I 中村 英樹	1・2学期 (ペア)	1	4	41
		1年			
	行政法特別研究I 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	民法特別研究I 矢澤 久純	1学期 (ペア)	1	4	42
		1年			
	民法特別研究I 小野 憲昭	1・2学期 (ペア)	1	4	43
		1年			
	商法特別研究I 休講		1	4	
		1年			
	民事訴訟法特別研究I 休講		1	4	
		1年			
	刑法特別研究I 休講		1	4	
		1年			
	刑事訴訟法特別研究I 休講		1	4	
		1年			
	刑事学特別研究I 朴 元奎	1・2学期 (ペア)	1	4	44
		1年			
	労働法特別研究I 休講		1	4	
		1年			
	社会保障法特別研究I 津田 小百合	1・2学期 (ペア)	1	4	45
		1年			
	国際法特別研究I 二宮 正人	1・2学期 (ペア)	1	4	46
		1年			
	日本法制史特別研究I 休講		1	4	
		1年			
	法哲学特別研究I 重松 博之	1・2学期 (ペア)	1	4	47
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■法律学系科目 ■特定課題研究科目	私法領域特定課題研究I 小野 憲昭 他	1・2学期 (ペア)	1	4	48
		1年			
	公法領域特定課題研究I 重松 博之 他	1・2学期 (ペア)	1	4	49
		1年			
■政策科学系科目 ■専門基礎科目	政策調査法 政策科学科教員	1学期	1	2	50
		1年			
■専門科目	政治学I 休講	1学期	1	2	
		1年			
	政治学II 休講	2学期	1	2	
		1年			
	行政学I 森 裕亮	1学期	1	2	51
		1年			
	行政学II 森 裕亮	2学期	1	2	52
		1年			
	政治思想史I 大澤 津	1学期	1	2	53
		1年			
	政治思想史II 大澤 津	2学期	1	2	54
		1年			
	途上国開発論I 三宅 博之	1学期	1	2	55
		1年			
	途上国開発論II 三宅 博之	2学期	1	2	56
		1年			
	産業政策論I 田代 洋久	1学期	1	2	57
		1年			
	産業政策論II 田代 洋久	2学期	1	2	58
		1年			
	公共政策論I 楢原 真二	1学期	1	2	59
		1年			
	公共政策論II 楢原 真二	2学期	1	2	60
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■政策科学系科目 ■専門科目	福祉政策論I 狭間 直樹	1学期	1	2	61
		1年			
	福祉政策論II 狭間 直樹	2学期	1	2	62
		1年			
	環境政策論I 申 東愛	1学期	1	2	63
		1年			
	環境政策論II 申 東愛	2学期	1	2	64
		1年			
	政策評価論I 横山 麻季子	2学期	1	2	65
		1年			
	政策評価論II 横山 麻季子	2学期	1	2	66
		1年			
	比較政治経済学I 坂本 隆幸	1学期	1	2	67
		1年			
比較政治経済学II 坂本 隆幸	2学期	1	2	68	
	1年				
自治体政策論I 中道 壽一	2学期	1	2	69	
	1年				
■特別研究科目	政治学特別研究I 休講		1	4	
		1年			
	行政学特別研究I 森 裕亮	1・2学期 (ペア)	1	4	70
		1年			
	政治思想史特別研究I 休講		1	4	
		1年			
	途上国開発論特別研究I 三宅 博之	1・2学期 (ペア)	1	4	71
		1年			
産業政策論特別研究I 休講		1	4		
	1年				
公共政策論特別研究I 楢原 真二	1・2学期 (ペア)	1	4	72	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■政策科学系科目 ■特別研究科目	福祉政策論特別研究I 狭間 直樹	1・2学期 (ペア)	1	4	73
		1年			
	環境政策論特別研究I 申 東愛	1・2学期 (ペア)	1	4	74
		1年			
	政策評価論特別研究I 休講		1	4	
		1年			
	比較政治経済学特別研究I 坂本 隆幸	1・2学期 (ペア)	1	4	75
		1年			
■特定課題研究科目	地域政策特定課題研究I 榎原 真二 他	1・2学期 (ペア)	1	4	76
		1年			
	比較政策特定課題研究I 三宅 博之 他	1・2学期 (ペア)	1	4	77
		1年			

知的財産法I【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、知的財産法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

知的財産法I

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

社会のソフト化高度化に伴い知的財産のもたらす価値が増大している。知的財産を概観すると、「思想または感情の創作物に関わるもの」「製品等の開発販売過程で創作されるもの」「営業上の信用が化体されているもの」の三類型に区分されるが、知的財産法Iは「製品等の開発販売過程で創作されるもの」と「営業上の信用が化体されているもの」を保護する特許法・意匠法・商標法・不正競争防止法を重点的に扱う。なお、技術契約等の契約実務も含める。

教科書 /Textbooks

木村研究室ホームページから判決文を配信します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「特許判例百選」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法概論～知的財産制度の概要
2. 特許法概論
3. 特許出願
4. 特許要件
5. 特許発明の技術的範囲解釈～文言侵害
6. 特許発明の技術的範囲解釈～均等論
7. 特許発明の技術的範囲解釈～みなし侵害
8. 特許発明の技術的範囲解釈～中間処理文書の読み方と解釈
9. 技術契約
10. 意匠法概論・デザイン保護法制の全体像
 11. 意匠出願と意匠登録要件
 12. 意匠権
13. 商標法概論
 14. 商標登録要件（実体的要件）
 15. 商標権侵害・不正競争防止法、パブリシティの権利

成績評価の方法 /Assessment Method

評価は、毎時間実施する小テスト（小レポート）計15回分の累積で行う。出席は成績評価の欠格要件とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知的財産法I【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>
単なる教科書の知識だけでなく、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

特許権 意匠権 商標権

現代政治論I【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 哲也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、現代政治論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

現代政治論I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀は、戦争の世紀と呼ばれるほど、多くの戦争が繰り返され、その戦禍は戦場で戦う兵士のみならず、一般の人々の日常にも広がり、多くの人々の生命・財産を奪った。政治が悲惨な結末を生むとき、その原因として、いかなる論理・思想が存在しているのだろうか。

本講義では、第一次世界大戦から全体主義の台頭、第二次世界大戦とユダヤ人虐殺、原爆投下といった歴史を振り返り、人間の生に深く関わる政治の実態について講義する。

その後、ハンナ・アレント、丸山眞男、マックス・ウェーバー、カール・シュミット、マックス・ホルクハイマー、エーリッヒ・フロム、レオ・シュトラウスといった人物の論述から、20世紀の欧米および日本の政治の背後にある論理・思想を明らかにしていく。

そして、20世紀の政治の負の論理・思想を乗り越える、非暴力・公共性・古典古代の政治哲学という三つ観点から、対立を超えて、善き政治社会の構築に向かう理論的枠組みと視点について学ぶ。

教科書 /Textbooks

適宜、プリント資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ハナ・アレント 著、大久保和郎・大島かおり訳 『全体主義の起原 3 - 全体主義』(みすず書房 1974年)

丸山眞男著 『(新装版) 現代政治の思想と行動』(未来社 新装版 2006年)

マックス・ウェーバー著、脇圭平訳 『職業としての政治 (岩波文庫)』(岩波書店 1980年)

C・シュミット著、田中浩・原田武雄訳 『政治的なものの概念』(未来社 1970年)

マックス・ホルクハイマー著、山口祐弘訳 『理性の腐蝕』(せりか書房 新版 1987年)

エーリッヒ・フロム著、日高六郎訳 『自由からの逃走 新版』(東京創元社 1965年)

エーリッヒ・フロム著、作田啓一・佐野哲郎訳 『希望の革命 改訂版』(紀伊國屋書店 改訂版 1970年)

レオ・シュトラウス著、塚崎智・石崎嘉彦訳 『自然権と歴史(ちくま学芸文庫)』(筑摩書房 ちくま学芸文庫版 2013年)

現代政治論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 20世紀とはどのような世紀であったのか
- 第3回 ヒトラーとナチスドイツ
- 第4回 全体主義の起源 - ハンナ・アレント -
- 第5回 超国家主義の論理と心理 - 丸山眞男 -
- 第6回 職業としての政治 - マックス・ウェーバー -
- 第7回 政治的なものの概念 - カール・シュミット -
- 第8回 理性の腐蝕 - マックス・ホルクハイマー -
- 第9回 自由からの逃走 - エーリッヒ・フロム -
- 第10回 自然権と歴史 - レオ・シュトラウス -
- 第11回 非暴力の政治理論
- 第12回 希望の革命 - エーリッヒ・フロム -
- 第13回 公共性の政治理論
- 第14回 古典古代の政治哲学と現代
- 第15回 総括 - 善き政治社会の構築に向けて -

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・70% 課題(小レポート)・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で取り上げる歴史および著作について、事前の予備知識や専門知識がなくても受講できるように、初歩から授業を行います。

政治学を専攻する方だけでなく、法律を専攻する方、政策学を専攻する方でもわかりやすく、またそれぞれの専攻分野にも活かせる授業を行います。

キーワード /Keywords

20世紀の政治史・戦争と平和・現代政治理論・公共哲学・政治哲学

都市環境論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 中園 哲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、都市環境論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

都市環境論Ⅰ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

明治以来、日本の近代国家形成に大きな役割を果たした北九州の歩みは、世界遺産となり、関連産業立地の歴史とともに後世に伝えていかねばならない。

また、第二次大戦後の国土復興においても牽引車として貢献し、経済の高度成長期には深刻な環境汚染を引き起こしたがこれを克服しただけでなく世界的な環境先進都市に進化させることに成功した。

経済発展のシンボルを克服すべき課題として行動を起こした婦人会の活動は、市民、企業、大学、行政の連携の基礎となり、北九州の歴史上重要な意義を有する。

この間の経験を活かした環境国際協力を他都市に先駆けて取り組み、その成果は国連機関から高く評価された。

このことが市民の環境意識を高め、「公害の町」から「環境先進都市」へと脱皮する原動力となった。

公害、国際協力、廃棄物の適正処理、循環型社会形成、環境教育、地球環境問題、少子高齢化社会、市民環境力育成と環境未来都市に向けた取り組みで世界をリードすることができた要因と教訓を考察したい。

北九州の環境の歴史から、私たちは何を学び取り、未来に活かしていくべきか、そして国際社会の中で何が活かせるかを考える。

教科書 /Textbooks

講師が毎回資料を準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講師が準備する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに： 北九州市の環境政策の概要と講義の進め方について
- 2回 公害問題の発生と対策： 経済発展のシンボルを克服すべき課題として取り組んだ婦人会活動の意義
- 3回 スモッグ警報発令と全市的協力体制確立： 北九州市の決断と企業の協力
- 4回 公害国会における公害関連法制度の確立： 開発より環境への動き
- 5回 公害の克服と新しい環境問題への取り組み： 後追い行政から未然防止へ
- 6回 環境国際協力の取り組み： 中国大連市との環境協力など
- 7回 環境国際協力の展開から環境ビジネスへ： アジア低炭素化センターの取り組み
- 8回 国際社会からの評価： グローバル500受賞が市民にもたらしたもの
- 9回 地球環境問題への取り組み： 国際社会からの期待と北九州市の取り組み
- 10回 廃棄物処理対策の方針転換： 「処理重視から資源リサイクルへ」
- 11回 エコタウンと3R： 循環型社会構築への道のり
- 12回 PCB処理とリスクコミュニケーション： 市民環境力とはなにか
- 13回 環境教育と市民活動： 環境教育の歩みと多様化する市民活動の発展
- 14回 低炭素社会づくりと環境モデル都市への道： 今、求められるもの
- 15回 まとめ： 北九州の環境政策はなぜ成功したのか、そしてこれから何が必要か

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 80%
講義中の質問、意見など 20%

都市環境論I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO・社会起業論I【昼】

担当者名 /Instructor 永田 賢介 / NAGATA KENSUKE / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、NPO・社会起業分野の知識を修得する。
技能	○	NPO・社会起業の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、NPO・社会起業に関して評価立案し実践的に提言することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

NPO・社会起業論I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では、社会の課題を創造的な事業とビジネスの手法によって解決し、変革と新しい社会をもたらす組織「ソーシャル・ベンチャー」と、その中心人物たる「社会起業家」を取り扱います。

一般的な営利のビジネスは金銭的な儲けや資本の増大を評価基準にしますが、ソーシャル・ベンチャーにおいて利益をあげる事はあくまで事業継続の手段でしかなく、どれだけ社会を変化させたか、またそのプロセスでどれくらいの人の参画機会となれたかを価値とします。NPOが株式会社かなどといった法人形態も様々です。

また社会起業家は、自分自身の「これはおかしい」「こうだったら良いのに」という経験や思いから当事者意識を持ち、望む社会の姿をイメージし、それを実現していきます。実際に大きなインパクトを發揮している国内の事例を通じて、皆さんと一緒に学んでゆきます。

教科書 /Textbooks

岡田斗司夫 『「世界征服」は可能か?』 筑摩書房 2007年 ¥798
他、適宜プリント等を使用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上阪 徹 『「カタリバ」という授業 社会起業家と学生が生み出す“つながりづくり”の場としくみ』 英治出版 2010年 ¥1,620
駒崎 弘樹 『「社会を変える」を仕事にする 社会起業家という生き方』 筑摩書房 2011年 ¥799
山口 絵理子 『裸でも生きる 25歳女性起業家の号泣戦記』 講談社 2007年 ¥1,512

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション / 社会起業家の概要と歴史
- 2回：ソーシャル・ベンチャーの事例(1)【福祉】
- 3回：ソーシャル・ベンチャーの事例(2)【国際協力】
- 4回：ソーシャル・ベンチャーの事例(3)【教育】
- 5回：「悪の秘密結社」に見るビジョンとミッション
- 6回：「世界征服」というイノベーション
- 7回：ソーシャル・ベンチャーの収益構造類型
- 8回：誰にでもある起業家精神
- 9回：持ち寄り / 寄り合い型の経営とマネジメント
- 10回：成果志向となるソーシャルセクターの動向
- 11回：福岡におけるNPO・社会起業家の事例(1)【教育】
- 12回：福岡におけるNPO・社会起業家の事例(2)【福祉】
- 13回：福岡におけるNPO・社会起業家の事例(3)【国際協力】
- 14回：マイ・プロジェクトの事例と考え方
- 15回：マイ・プロジェクト発表とフィードバック

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 日常の授業への取り組み...70%

NPO・社会起業論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業ではたびたびディスカッションの時間を設けます。発言するときには「I think〜(私はこう思う)」と自分を主語にして語り、他者の意見を聞くときには「Yes,and〜(うん、それで?)」という傾聴の姿勢で参加してください。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NPOで働く、また社会起業家と呼ばれるような人たちは、特別社会貢献意識が高かったり、特殊なカリスマや高いスキルを持っていたりするのでしょうか？数々の事例や文献によると、どうやらそうとも限らないようです。

自己犠牲的な善ではなく、自分の現在や将来の事を本気で考え、ワガママになればなるほど、見知らぬ他者や社会といった「公益」の領域にアプローチせざるを得なくなります。気付き、動き出すことから、みなさんも一緒に「新しい社会」を考えていきましょう。

キーワード /Keywords

ソーシャル・ベンチャー 社会起業家 当事者意識 起業家精神 NPO 寄付

都市計画論I【昼】

担当者名 山脇 直祐 / Naosuke YAMAWAKI / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、都市計画論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

都市計画論I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

「『住むこと』について考える」

私たちは、必ず誰かの隣に住んでいます。

他者との関係のなかで「住む」ということは、私たちが生きていく上で避けようのない事実です。

また、「居住」するための「住居」のあり方は、私たちの生活のあり方を左右することすらあります。

それでは、私たちはいかなる方法で自ら「住む」環境の形成に関わっていくことができるのでしょうか。

本講は、私たちの日常生活にとって身近かつ根源的・基本的な「住む」という事実、都市計画を通し、

政治・政策・法に関する学問の実践的意義について理解を深めること、

新たな政策展開の可能性を考察することを目的とします。

教科書 /Textbooks

毎回、レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

第 1回 はじめに。～「住むこと」がもつ根源性・政治性について～ 【居住】【住居】【住宅】

第 2回 「住むこと」とは何であったか～住宅政策における「住宅」観～ 【持家政策】【居住政策】

第 3回 「51C」から「居住福祉」へ～住宅改良の社会史～ 【貧民窟】【51C】【居住福祉】

第 4回 居住地によるデモクラシー? 【集合住宅デモクラシー】【私的政府】【CID】

第 5回 社会が育む権利の内実～法解釈理論の新展開I～ 【所有】【総有】【合有】

第 6回 交渉で育て続ける契約～法解釈理論の新展開II～ 【私的自治】【関係】【交渉】

第 7回 わが国マンションにおける議会政治 【強制競売】【建替え決議】【区分所有者集会】

第 8回 マンション所有権の基本権的性質 【区分所有権】

第 9回 “困った人たち”の物語～マンション管理狂騒曲～ 【マンション管理】

第 10回 揺れ続けたマンション～阪神淡路大震災被災マンションの建替え～ 【被災建替え】

第 11回 不法占拠の“法外”な合法性?～ウトロ51番地・伊丹空港に住んだ人々～ 【合法性】

第 12回 集合住宅としての都市の命運～チェルノブイリ・九龍城塞、デトロイト・軍艦島と北九州～ 【国家】【経済】【都市】

第 13回 いかにして「住む」か～コーポラティブ・ハウジングという手法～ 【コーポラティブ・ハウジング】

第 14回 どのように「住む」か～コレクティブ・ハウジングという可能性～ 【コレクティブ・ハウジング】

第 15回 おわりに。～居住生活と住宅をめぐる「価値」・「場所」・「方法」～ 【合意形成】

成績評価の方法 /Assessment Method

受講姿勢、定期試験。各回のテーマに関する自主的レポート(2500字程度)の提出も歓迎します。

受講姿勢...30% 定期試験...70%

レポートはその内容に応じ、1本10%までで加点します。

都市計画論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布するレジюмеをよく読んでおくこと。

- 自分なりの問題意識をもつこと。
- 知識にこだわらず、何が問題であるかを考えて欲しい。

臆しない。悩まない。困ったら、応相談。

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出来、不出来より積極性を評価します。

修士論文作成に向けて、進路形成に向けていかに講義を活用するかを考えてもらいたい。

キーワード /Keywords

持家政策、居住政策、貧民窟、51C、居住福祉、集合住宅デモクラシー、私的政府、CID、マンション管理、被災建替え、合法性、コーポラティブ・ハウジング、コレクティブ・ハウジング

法政総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 法学研究科担当教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 /Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系・政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法律学と政策科学に関する総合的な知識を修得する。
技能		
態度	○	自立した研究者または高度専門職業人として、主体的かつ積極的に研究し行動することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

法政総合演習

授業の概要 /Course Description

本科目は、法律系・政策系の枠組みを超えて、また研究者コース・専修コースの枠組みを超えて、法律学・政策科学の全体を俯瞰する。それにより、自らが専門として研究しようとする分野が、法学全体の中でどのような位置づけとなるのかを把握するために必要となる知識を習得することを目的とする。
 オムニバス式の講義に本研究科所属の専任教員の多くが出講することにより、教員と大学院生の交流の接点を作り出すとともに、各担当教員の専門分野に関する現在の状況を学生に提示することで、学生の履修計画、論文執筆、ならびに研究に関連する他分野についての質疑応答などにも役立つことが期待される。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当者のトピックスに応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 憲法学の現在
- 第3回 基礎法学の現在
- 第4回 民法学の現在
- 第5回 商法学の現在
- 第6回 民事訴訟法学の現在
- 第7回 刑事法学の現在
- 第8回 社会学の現在
- 第9回 都市政策研究の現在
- 第10回 環境政策研究の現在
- 第11回 福祉政策研究の現在
- 第12回 比較政策研究の現在
- 第13回 政治研究の現在
- 第14回 行政研究の現在
- 第15回 大学院2年生による中間発表会と法政総合演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前に、当該回の分野の内容について、自ら一定程度の知識を事前に得て予習をしておくこと。授業の後は、ノートや配付資料をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自らの研究分野以外の知識も、この講義を通して積極的に吸収してください。各担当教員の専門分野およびそれに関連した参考文献などを自ら進んで調べるにより、より理解が深まるでしょう。

法政総合演習【夜】

キーワード /Keywords

法律文献調査 【夜】

担当者名 /Instructor 法律学科教員

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解		
技能	◎	研究活動を進めるうえで必要となる法的情報（判例や法律文献や法令等）を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
態度	○	修士論文または特定課題研究の作成に必要な基本的な研究姿勢を身につける。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

法律文献調査

授業の概要 /Course Description

本講義では、六法を中心とする法律の各分野に即して、必要となってくる判例や法律文献や法令等の調査方法について学習する。その際、基本的な法分野を広く見渡しながら学習することになる。そのうえで最終的には、基本的には各自が専門とする分野についての判例評釈を書くことになる。そのために、判例、文献、法令等の引用の仕方などもあわせて学ぶ。法律学の全体を幅広く見渡すと同時に、この講義で学んだことを、各人が修士論文や特定課題研究を今後執筆していく上でのスキルとして活用できるようにすることが、本講義の目的とするところである。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて講義中に指定する。

法律文献調査 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文の作成にあたって-盗用・剽窃に対する注意喚起と正しい引用の仕方
- 第3回 法律文献情報の調査法
- 第4回 法令の調査法
- 第5回 データベースを使った判例・文献の調査法
- 第6回 公法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
- 第7回 公法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
- 第8回 刑事法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
- 第9回 刑事法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
- 第10回 民法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
- 第11回 民法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
- 第12回 商法領域の判例・文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
- 第13回 社会法領域の判例・文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
- 第14回 基礎法領域の(判例・)文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
- 第15回 国際法領域の判例・文献調査について【国際法領域関連情報の調査方法】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への参加の態様(熱心さや貢献度など)(50%)、レポート(50%)
レポートは、各自が専門とする分野での判例評釈を作成することを基本とする。
ただし、専門とする分野によっては教員と相談のうえ、文献レビューでも可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 1, 判例や文献の情報検索に際してはパソコンを使用することもあるので、パソコンの基本的な操作方法に関しては、事前に知っておく必要がある。
- 2, 各講義回の担当教員の指示に従って、課題に取り組むこと。
- 3, 授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文献調査 法令調査、判例調査

憲法BI【夜】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、憲法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

憲法BI

授業の概要 /Course Description

憲法学未習者も念頭におきながら、憲法学に関する基礎的知識の習得あるいは確認、及び多角的検討を行うことを目的とする。
具体的には、下記「教科書」を参加者全員で講読していくが、参加者の人数や専攻等に応じて、取り上げる文献の変更もありうる。
テキストの分担報告・それに基づく全員での検討・議論を進行の基本とする。

教科書 /Textbooks

戸松秀典『プレップ憲法 第3版』（弘文堂、2007年）
※変更の可能性もあるので、初回は購入せずに参加すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告分担決定など）
- 第2回 憲法に関する基礎的内容の講義
- 第3回 憲法に関する応用的内容の講義
- 第4回 指定テキストの報告及び検討・議論（第1章 憲法学の広さと深さ）
- 第5回 指定テキストの報告及び検討・議論（第2章 憲法の解釈）
- 第6回 指定テキストの報告及び検討・議論（第3章 日本国憲法の仕組み）
- 第7回 指定テキストの報告及び検討・議論（第4章 尊属殺人事件の裁判例）
- 第8回 指定テキストの報告及び検討・議論（第5章 最高裁判所と裁判官）
- 第9回 指定テキストの報告及び検討・議論（第6章 違憲判決と憲法判例）
- 第10回 指定テキストの報告及び検討・議論（第7章 憲法訴訟の道）
- 第11回 指定テキストの報告及び検討・議論（第8章 政治過程における解決）
- 第12回 指定テキストの報告及び検討・議論（第9章 国民と憲法）
- 第13回 専門文献講読①（基本権領域）
- 第14回 専門文献講読②（統治機構領域）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

担当回の報告内容：50%、検討・議論への参加状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストの報告が複数回課されるので、報告担当者は、該当部分の内容をまとめたレジュメを用意すること。
報告者以外も、テキストの該当部分を十分読み込んで、議論に参加できるように準備しておくこと。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。
憲法についてある程度の前知識を有していることが望ましいが、強い関心があれば未習者であっても歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

憲法BI【夜】

キーワード /Keywords

憲法BII【夜】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、憲法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

憲法B II

授業の概要 /Course Description

憲法学未習者も念頭におきながら、憲法学に関する基礎的知識の習得あるいは確認、及び多角的検討を行うことを目的とする。
具体的には、下記「教科書」を参加者全員で講読していくが、参加者の人数や専攻等に応じて、取り上げる文献の変更もありうる。
テキストの分担報告・それに基づく全員での検討・議論を進行の基本とする。

教科書 /Textbooks

新井誠ほか編著『地域に学ぶ憲法演習』（日本評論社、2011年）
※変更の可能性もあるので、初回は購入せずに参加すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告分担決定など）
- 第2回 （必要があれば）憲法に関する基礎的内容の講義
- 第3回 指定テキストの報告及び検討・議論（総論1 憲法から論じる格差社会）
- 第4回 指定テキストの報告及び検討・議論（総論2 条例による有害図書規制の行方）
- 第5回 指定テキストの報告及び検討・議論（総論3 ローカルな法秩序の可能性）
- 第6回 指定テキストの報告及び検討・議論（大泉町の外国人行政）
- 第7回 指定テキストの報告及び検討・議論（地域が民営刑務所を「引き受ける」ことの意味）
- 第8回 指定テキストの報告及び検討・議論（山陰の「周縁」で「一票の不平等」容認を叫ぶ？）
- 第9回 指定テキストの報告及び検討・議論（白山信仰と政教分離原則）
- 第10回 指定テキストの報告及び検討・議論（生存権保障が抱えるジレンマ）
- 第11回 指定テキストの報告及び検討・議論（道州制）
- 第12回 指定テキストの報告及び検討・議論（地域における民主制）
- 第13回 指定テキストの報告及び検討・議論（直接民主制による間接民主制の補完）
- 第14回 指定テキストの報告及び検討・議論（同性婚論争とアメリカ）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

担当回の報告内容：50%、検討・議論への参加状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストの報告が複数回課されるので、報告担当者は、該当部分の内容をまとめたレジュメを用意すること。
報告者以外も、テキストの該当部分を十分読み込んで、議論に参加できるように準備しておくこと。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。
憲法についてある程度の前提知識を有していることが望ましいが、強い関心があれば未習者であっても歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法BI【夜】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、行政法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

行政法BI

授業の概要 /Course Description

条例制定権の限界に関する裁判例を読み、検討を行う（参加者に何らかの報告の場を設ける）。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

- ①裁判例の事実の概要と判決の要旨を要領よくまとめることができる。
- ②裁判のなかで問題となっている法的問題を明らかにし、従来の議論に照らしてそれを批評することができる。
- ③条例制定権に関する裁判例の状況を理解する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 広島市暴走族追放条例事件
- 第3回 奈良県ため池条例事件
- 第4回 大阪市売春勧誘取締条例事件
- 第5回 福岡県青少年保護育成条例事件
- 第6回 旭川市国民健康保険条例事件
- 第7回 徳島市公安条例事件
- 第8回 神奈川県臨時特例企業税条例事件
- 第9回 高知市普通河川管理条例事件
- 第10回 東郷町ラブホテル規制条例事件
- 第11回 墓地、埋葬等に関する法律施行条例事件
- 第12回 紀伊長島町水道水源保護条例事件
- 第13回 横浜市市立保育所廃止条例事件
- 第14回 北海道海面漁業調整規則事件
- 第15回 まとめ

※受講者の人数、授業の進行状況に応じて、授業の内容を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%
日常の取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

行政法BI 【夜】

履修上の注意 /Remarks

行政法総論、行政争訟法を履修済みであることが望ましい。
事前に裁判判決を読んできてもらうことは必須である。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法

行政法BII【夜】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、行政法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

行政法B II

授業の概要 /Course Description

塩野宏『国と地方公共団体』『行政組織法の諸問題』を読み、検討を行う（参加者に何らかの報告の場を設ける）。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

- ① 行政法に関する論文に書かれた法的問題を抜き出し説明することができる。
- ② 法的問題に関する学説の状況を整理して述べることができ、また筆者の立場と比較することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「地方公共団体の法的地位論覚書」
- 第3回 「地方公共団体に対する国家関与の法律問題」
- 第4回 「社会福祉行政における国と地方公共団体の関係」
- 第5回 「機関委任事務の法的問題点」
- 第6回 「地方公共団体の長の地位に関する一考察」
- 第7回 「自主立法権の範囲」
- 第8回 「府県制論」
- 第9回 「境界紛争に関する法制度上の問題点」
- 第10回 「特殊法人に関する一考察」
- 第11回 「国際公衆電気通信事業主体の法的地位に関する覚え書き」
- 第12回 「大学運営臨時措置法と文部大臣の権限」
- 第13回 「西ドイツ大学改革の一事例」
- 第14回 「J・ランデイス『規制機関に関する報告』の概要と問題点」
- 第15回 まとめ

※受講者の人数、授業の進行状況に応じて、授業の内容を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%
日常の取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

行政法BII 【夜】

履修上の注意 /Remarks

行政法総論、行政争訟法を履修済みであることが望ましい。
授業前に各回の論文を読んできてもらうことが必須となる。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法

民法AⅠ【夜】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

民法AⅠ

授業の概要 /Course Description

この科目では、民法の中の民法総則の部分について考える。民法を学習する場合、民法総則が基本となる。また、法学全般の基本でもある。ここを学習することは、大きな意味があるものと思われる。この分野について、裁判例に留意しながら、講義及び学生の報告という形で、授業を進めてゆきたい。学部の講義のときよりも、一歩踏み込んだ議論を展開することが望まれる。

教科書 /Textbooks

民法総則分野の本であれば、なんでも良い。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 信義誠実の原則の適用範囲
- 3回 権利の濫用の適用範囲
- 4回 未成年者をめぐる諸問題
- 5回 成年後見をめぐる諸問題
- 6回 物をめぐる諸問題
- 7回 法律行為をめぐる諸問題
- 8回 虚偽表示をめぐる諸問題
- 9回 錯誤をめぐる諸問題
- 10回 詐欺、強迫をめぐる諸問題
- 11回 代理をめぐる諸問題
- 12回 無権代理をめぐる諸問題
- 13回 条件、期限をめぐる諸問題
- 14回 時効をめぐる諸問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲 ... 50 %
学期末に提出してもらうレポート ... 50 %
(レポート課題は、講義で取り扱ったものの中から、後日、指定する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法を必ず、持参すること。
それなりに調査・研究することが望まれる。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

民法AI【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は、留学生が法学日本語を学習するために履修することが予想される。そのため、他研究科学生が受講を希望する場合に、状況によっては受け入れが難しい場合がある。

キーワード /Keywords

民法総則

民法AII【夜】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

民法AII

授業の概要 /Course Description

この授業では、いわゆる環境問題に関わる不法行為を大きなテーマとする。すなわち、不法行為法について、裁判例に留意しながら、講義及び学生の報告という形で、授業を進めていきたい。その際、日本と中国の不法行為法について、比較研究をすることを目標としたい。従って、日本では民法709条以下の不法行為制度、中国では侵權行為法が、この授業での主たる研究対象となる。中国法も扱うため、基本的な中国語を読むことができる者のみ、受講を許可する。

教科書 /Textbooks

使用せず。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 権利侵害をめぐる諸問題
- 3回 違法性をめぐる諸問題
- 4回 故意をめぐる諸問題
- 5回 過失一般をめぐる諸問題
- 6回 注意義務の定立過程をめぐる諸問題
- 7回 事実的因果関係をめぐる諸問題
- 8回 因果関係の立証をめぐる諸問題
- 9回 賠償範囲確定をめぐる諸問題
- 10回 過失相殺をめぐる諸問題
- 11回 使用者責任をめぐる諸問題
- 12回 工作物責任をめぐる諸問題
- 13回 共同不法行為をめぐる諸問題
- 14回 特別法をめぐる諸問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲 50 %
 学期末に提出してもらうレポート 50 %
 (レポート課題は、授業で取り扱ったものの中から、後日、指定する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法は必ず持参すること。
 それなりに調査・研究することが望まれる。
 授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

民法AII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は、留学生在が法学日本語を学習するために履修することが予想される。そのため、他研究科学生在が受講を希望する場合に、状況によっては受け入れが難しい場合がある。

キーワード /Keywords

不法行為法

民法BI【夜】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		民法BI

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法・財産法分野に関する学術論文（なかでも、フランス民法を比較法または分析の主たる対象とする論説や研究ノート）の検討を行う。学部時代に培った分析力等を総動員して、質の高い研究報告、文献の検討、およびレポート執筆を行う力を養うことがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

※使用しない。民法（財産法）の基本書・体系書、フランス（民）法の概説書等については、受講院生が普段使用しているものを持参すること。なお、最新版（年度）の六法は必携。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※参考書については、適宜、指導のなかで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内はキーワード。
 第1回：ガイダンス；授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明・協議・決定。【大学院レベルの報告とは？】
 第2回：報告学術論文概要報告（受講生全員）。【フランス債務法分野を対象とする代表的研究論文の紹介】
 第3回：教員による報告および質疑・応答 【フランス債務法における法定解除の法的基礎と要件論】
 第4回：教員による報告に対する質疑・応答 【黙示の解除条件とフランス民法1184条】、【フランス民法（債務法）改正】
 第5回：院生による報告および質疑・応答 その1 【報告論説の内容そのものの理解】、【フランス民法上の法制度の理解】
 第6回：院生による報告および質疑・応答 その2 【フランス民法における判例の意義を意識した質疑・応答】、【科学学派】
 第7回：院生による報告および質疑・応答 その3 【比較法的考察（フランス民法とわが国の民法との差異に着目する）】
 第8回：院生による報告および質疑・応答 その4 【わが国旧民法への接続（ポワソナード草案の研究も兼ねて）】
 第9回：院生による報告および質疑・応答 その5 【ローマ法からフランス民法典制定までの流れを意識した質疑・応答】
 第10回：院生による報告および質疑・応答 その6 【わが国における当該分野の研究の現状と課題を明確に示す質疑・応答】
 第11回：原著（フランス債務法）研究その1 【現代フランス債務法における契約解除理論】 ※ただし、受講院生がフランス語を読めない場合、他の内容を協議のうえで決定することがありうる。
 第12回：原著（フランス債務法）研究その2 【19世紀註釈学派の名著に触れる（オーブリー＝ロー、ローランの著作など）】
 第13回：原著（フランス債務法）研究その3 【フランス民法典の編纂過程に関する資料に触れる（共和国暦8年草案など）】
 第14回：原著（フランス債務法）研究その4 【フランス民法典に影響を与えた学説に触れる（ドマ、ポティエの著作など）】
 第15回：まとめ
 ※最終授業終了時、レポート（6,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討したフランス民法上の法制度とわが国の民法上の法制度との比較法的考察を主たるテーマとしたものとする。執筆要領その他詳細は、初回時に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など……60%
 ※レポートの内容……40%
 【注意】レポート未提出者には単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法BI 【夜】

履修上の注意 /Remarks

報告準備、レポート執筆など、負担の大きい授業である。予習事項としては、フランス民法を扱うので、まずは各大学の紀要等に掲載されている論説(適宜、担当教員が指示する。)を読み込んでくることが求められる。また、復習事項としては、報告終了後、当方から口頭にて課題を出すので、それについて文献などを調べてペーパーを提出してもらう(1,200字程度を予定)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス民法に関心を持とう！旧民法(およびボワソナード草案)にも関心を持とう！

キーワード /Keywords

フランス債務法研究

民法BII【夜】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		民法B II

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、債権法分野に関する重要判決（判例）の再検討を行う。学部時代、基本書を読んだり、ゼミでの判例研究報告などで、一度はその判決理由（の一部）を読んだことのあるものばかりである。しかし、この授業では、主に、「判決が公表された当時の学説との関係」の観点から、より深く、当該最高裁（または大審院）判決を分析していく。特に、最高裁（ないし大審院）がその判決理由中において定立した「規範」の射程を当時の学説がどのように受け止めていたか、比較法的分析はどのようにされていたかなど、学部とは一線を画する質の高い民事判例研究報告・判例評釈執筆を行ってもらいたい。

教科書 /Textbooks

最新版の六法（判例付きのものが望ましい。）必携。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書については、適宜指導のなかで紹介する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス；授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明・協議・決定。
- 第2回：「カフエー丸玉女給事件・再論①（判決理由の分析）」 ※以下、受講院生と教員との対話形式で分析を行う。
- 第3回：「カフエー丸玉女給事件・再論②（判決当時の学説との関係・比較法的分析）」
- 第4回：「富喜丸事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第5回：「富喜丸事件・再論②（判決当時の学説との関係・比較法的分析）」
- 第6回：「タービンポンプ事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第7回：「タービンポンプ事件・再論②（判決当時の学説との関係・比較法的分析）」
- 第8回：「『塩釜声の新聞社』事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第9回：「『塩釜声の新聞社』事件・再論②（判決当時の学説との関係・比較法的分析）」
- 第10回：「ブルドーザー事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第11回：「ブルドーザー事件・再論②（判決当時の学説との関係・比較法的分析）」
- 第12回：「大学湯事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第13回：「大学湯事件・再論②（判決当時の学説との関係・比較法的分析）」
- 第14回：受講院生による民事判例研究報告（報告45分、質疑・応答45分）
- 第15回：まとめ

※最終授業終了時、レポート（6,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討した最高裁判決（ないし大審院判決）を対象とする判例評釈とする。ただし、「大学院レベル」の評釈を求めたいので、学説の配置、判決当時の学説と当該判決（最高裁等が示した規範）との関係の詳細な分析、比較法的考察など、多岐に渡る内容を期待したい。なお、執筆要領その他の詳細は、初回時に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※授業中の発言内容、議論・対話への積極的参加の度合い...60%
- ※第14回（予定）で行う判例研究報告の内容...10%
- ※レポート（判例評釈）の内容...30%
- 【注意】レポート（判例評釈）未提出者には、原則として単位を付与しない。

民法BII 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

大審院判決を多く扱うので、当然、大審院民事判決録、大審院民事判例集をじっくり読み込んでもらうことになる(予習事項)。また、関連する判例評釈などについても、各種文献を渉猟してもらう。復習事項としては、毎回授業の終わりの際に、担当教員から口頭にて簡単な課題を提示するので(判決に関連する学説に関する課題を予定)、それについて復習を兼ねて調べておくように。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できれば、戦前の「大審院判例審査会」が当時の民録・民集の「判決要旨」作成に当たって、上記大審院判決の判旨をどのように受け止めていたかといった点まで分析してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法CI【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

民法CI

授業の概要 /Course Description

最新の最高裁判例を素材としながら、これまで学部で培ってきた民法の知識や理解、思考の専門性を一層深めるとともに、民法研究に必要な基礎作業ができるようになることを目的としています。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業ガイダンス
- 2回 報告内容・担当者の決定
- 3回 判例研究の意義、目的、関係文献検索の方法の確認
- 4回 判例研究の方法、判例引用の仕方に関する基本事項の確認
- 5回 判例評釈等の活用方法の確認
- 6回 判例精読
- 7回 判例の検討方法の確認
- 8回 関連判例収集・精読
- 9回 関連判例検討・整理
- 10回 判例評釈等の主張整理
- 11回 基本文献による判例の評価
- 12回 関係論文による判例の評価
- 13回 判例評釈等による判例の評価
- 14回 判例の体系的な位置づけの検討
- 15回 研究成果のまとめと討論

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート(2000字詰め原稿用紙30枚程度)・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生全員で分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。報告の際にはレジュメを用意してください。受講生全員討論に積極的に参加するよう求めます。報告判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民法CI【夜】

キーワード /Keywords

民法CII【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

民法CII

授業の概要 /Course Description

民法に対する知識や理解を一層深めるために、民法上重要な制度の形成・変遷の歴史を検討することを目的とします。制度の成り立ちや仕組み、その運用状況を知ることによって、我が国の民法上の問題点が、これまでどのように解決されてきたのか、そしてこれからどのように解決されるべきなのか、一緒に検討してみようと思っています。

教科書 /Textbooks

必要に応じてその都度紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業ガイダンス
- 2回 テーマ決定
- 3回 文献・判例の収集に関する基本事項の確認
- 4回 文献・判例の活用に関する基本事項の確認
- 5回 基本文献の収集
- 6回 基本文献の精読
- 7回 関係文献の収集
- 8回 関係文献の精読
- 9回 基本判例の収集
- 10回 基本判例の精読
- 11回 関連判例の収集
- 12回 関連判例の精読
- 13回 制度史、学説史の整理
- 14回 判例の形成・変遷過程の整理
- 15回 検討内容のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート(2000字詰め原稿用紙30枚程度)・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者全員で分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。必要なことは開講時に指示します。判例や基本書を参照しながら、報告内容について事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法AI【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

商法A I

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的ケースを取り上げながら、銀行事業・証券事業・保険事業・貸金業など、いわゆる金融業に伴って生じる諸問題について、ニュースや裁判例を素材にして、法的な観点から検討を加えることにあります。

【注意】下記の授業計画・内容の項に記載されたテーマは、あくまで、一つの例示です。
受講者の興味関心事が優先されることは当然であり、希望するテーマへと自由に変更・差し替えをすることができます。

教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の問題関心・テーマに応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミの運営方針の説明。
興味を抱いているテーマ・事例を選ぶにあたって、受講者各自の問題意識を確認・明確化する。
- 2回 興味関心のあるテーマに関わる資料(裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など)を検索してみる。
1) 裁判例や判例についての解説も含む関連資料が十分存在しているかどうか、
2) 入手が容易かどうかをつかむことで、テーマとして取り組みやすいかどうか、を見極める。
- 3回 候補テーマについて調査・分析の方法や範囲などについて、意見交換・助言の実施。
- 4回 各自のテーマ(後からの変更もOK)を相互に公表した後、報告順番を決定する。
- 5回 銀行取引をめぐる問題(決済)
- 6回 銀行取引をめぐる問題(本業と副業=窓口販売)
- 7回 銀行取引をめぐる問題(融資・貸し手責任)
- 8回 銀行取引をめぐる問題(為替)
- 9回 銀行の健全な経営に関わる問題
- 10回 証券取引をめぐる問題
- 11回 証券会社の健全な経営に関わる問題
- 12回 消費者金融に関する問題
- 13回 保険取引をめぐる問題
- 14回 保険会社の健全な経営に関わる問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(レポート)内容50%、ディスカッションへの参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

商法AI【夜】

履修上の注意 /Remarks

- 1, 次回までに読んでおくべき参考文献等については, メモをとり, 要点・疑問点をまとめておくと, 演習がより有意義なものとなるでしょう。
- 2, 報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが, 議論の活性化のためには望ましいといえます。
- 3, 授業終了後には論点をまとめ復習して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法AII【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

商法AII

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的なニュースや裁判例を取り上げながら、企業取引で生じている今日的な法律問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。

【注意】下記の授業計画・内容の項に記載されたテーマは、あくまで、一つの例示です。
受講者の興味関心事が優先されることは当然であり、希望するテーマへと自由に変更・差し替えをすることができます。

教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01回 ゼミの運営方針の説明。
テーマ・事例の選定にあたり、各自の問題意識を再確認し、あるいは、明確化する。
- 02回 興味のあるテーマに関わる資料（裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など）を検索してみる
関連資料の多寡や入手の難易度を調査して、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める。
- 03回 複数の報告候補テーマを紹介し合う。
調査：分析の方法や範囲などについて、意見交換・助言の実施。
- 04回 各自が取り組むテーマ（後からの変更もOK）を暫定的に決定すると共に報告順番を定める。
- 05回 報告と討論 例：営業秘密と不正競争
- 06回 報告と討論 例：秘密保持契約をめぐる問題点
- 07回 報告と討論 例：新しい事業形態と名板貸責任
- 08回 報告と討論 例：新しい事業形態と報償責任
- 09回 報告と討論 例：食品の偽装表示
- 10回 報告と討論 例：銀行取引約定書における債権保全規定
- 11回 報告と討論 例：金利の規制
- 12回 報告と討論 例：貸付債権の流動化をめぐる問題点（住専問題・リーマンショックから学ぶ）
- 13回 報告と討論 例：インサイダー取引
- 14回 報告と討論 例：消費者信用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レポートの内容50%、ディスカッションへの参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

商法II【夜】

履修上の注意 /Remarks

- 1, 予習・復習はもちろん、テーマについての自発的なリサーチが求められます。
- 2, 次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくと、演習がより有意義なものとなるでしょう。
- 3, 報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法BI【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

商法B I

授業の概要 /Course Description

近年の会社法改正問題を中心に、会社法の重要論点について検討します。この授業では、主に、株式会社の機関に関する問題を扱います。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 株式会社の機関の概要
- 第3回 株主総会（1）【招集】【株主の議決権】
- 第4回 株主総会（2）【委任状の勧誘】【株主提案権】
- 第5回 株主総会（3）【決議の瑕疵】
- 第6回 株式会社の業務執行（1）【取締役会】
- 第7回 株式会社の業務執行（2）【代表取締役】
- 第8回 株式会社の監督・監査
- 第9回 取締役の義務
- 第10回 取締役の報酬規制
- 第11回 取締役の責任（1）【会社に対する責任】
- 第12回 取締役の責任（2）【株主代表訴訟】
- 第13回 取締役の責任（3）【第三者に対する責任】
- 第14回 親子会社のガバナンス
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法BII【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		商法B II

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

近年の会社法改正問題を中心に、会社法の重要論点について検討します。この授業では、主に、株式会社のファイナンスやM&Aに関する法律問題を扱います。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 株式会社のファイナンスの概要
- 第3回 株式の発行(1)【授権資本制度】【有利発行】
- 第4回 株式の発行(2)【不正発行】
- 第5回 株式の発行(3)【新株発行の無効】
- 第6回 株式の譲渡
- 第7回 自己株式の取得
- 第8回 新株予約権
- 第9回 社債
- 第10回 組織再編・M&A(1)【合併】【会社分割】
- 第11回 組織再編・M&A(2)【株式交換】【株式移転】
- 第12回 組織再編・M&A(3)【株式買取請求権】
- 第13回 組織再編・M&A(4)【敵対的買収】
- 第14回 非公開化取引
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法A1【夜】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

民事訴訟法A1

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する学説上、基本的な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、その上で、討論をします。このことにより民事訴訟法についての知識を修得することを目的とします。最終的に、レポートを提出してもらいます。レポートの分量は、10000字程度を予定しています。なお、レポートのテーマについては、受講生と相談の上、決定します。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 司法書士、裁判所事務官、法律事務所事務員などの専門的職業人として活躍するために必要となる民事裁判の専門的知識を修得できる。
- ・ 学部での学習、社会人としての経験から関心を持った民事裁判についての問題を掘り下げて研究するための批判的分析能力・論理的思考能力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

特に、指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に、受講生に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 法律上の争訟
- 3回 移送
- 4回 除斥、忌避
- 5回 死者を当事者とする訴訟
- 6回 法人でない団体の当事者能力
- 7回 法定訴訟担当
- 8回 訴訟能力
- 9回 将来の給付の訴え
- 10回 遺言無効確認の訴え
- 11回 証書真否確認の訴え
- 12回 訴えの交換的変更
- 13回 境界確定の訴え
- 14回 相殺の抗弁と重複訴訟
- 15回 一部請求

成績評価の方法 /Assessment Method

報告状況 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生に個別に指示します。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

民事訴訟法AI【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法AII【夜】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

民事訴訟法AII

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する学説上、重要な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、その上で、討論する。最終的にレポートを作成することを目的とする。この講義を受講することにより、民事訴訟法についての幅広く、深い知識を修得できる。

レポートの分量は、10000字程度を予定している。なお、テーマについては、受講生と相談の上、決定する。

到達目標は以下のとおりです。

司法書士、裁判所事務官、法律事務所事務員などの専門的職業人として活躍するために必要となる民事裁判の専門的知識を修得できる。

・学部での学習、社会人としての経験から関心を持った民事裁判についての問題を掘り下げて研究するための批判的分析能力・論理的思考能力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

特に、指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に受講生に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 攻撃防御方法の提出と信義則
- 3回 時機に遅れた攻撃防御方法
- 4回 弁論主義
- 5回 釈明権
- 6回 権利自白
- 7回 集団訴訟における証明
- 8回 概括的認定
- 9回 損害賠償額の算定
- 10回 違法収集証拠
- 11回 証明責任
- 12回 文書提出命令
- 13回 既判力の時的限界
- 14回 既判力の客観的範囲
- 15回 既判力の主観的範囲

成績評価の方法 /Assessment Method

報告状況 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前に、文献・判例を充分調査・検討して、講義に臨むこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

民事訴訟法AII 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法AI【夜】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

刑法AI

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

刑法学における主要なテーマについて、現時点における理論的到達点を把握することを目指します。刑法AIでは、特に刑法総論のテーマについて議論します。授業の形式は、受講者各位が関心のあるテーマを選択し、テーマごとの基本的文献と関連する文献について、まとめて報告してもらい形になります。その報告を基に、教員および受講者全員で議論をすることで、現在の刑法学の問題関心を明らかにして、修士論文のテーマの設定ないしは明確化に資するようにします。

教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊東研祐 / 松宮孝明編『リーディングス刑法』（法律文化社、2015年）
 - 高橋剛夫 / 杉本一敏 / 仲道祐樹『理論刑法学入門 刑法理論の味わい方』（日本評論社、2014年）
- この他、受講者の関心に応じて、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の運営方針の説明、受講者によるテーマの選択）
 - 第2回 文献の調べ方、報告の方法についての概説
 - 第3回 テーマ①刑法解釈の方法論：受講者による報告・議論
 - 第4回 テーマ①刑法解釈の方法論：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第5回 テーマ②実行為論：受講者による報告・議論
 - 第6回 テーマ②実行為論：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第7回 テーマ③因果関係論：受講者による報告・議論
 - 第8回 テーマ③因果関係論：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第9回 テーマ④違法性の本質：受講者による報告・議論
 - 第10回 テーマ④違法性の本質：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第11回 テーマ⑤違法性阻却事由：受講者による報告・議論
 - 第12回 テーマ⑤違法性阻却事由：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第13回 テーマ⑥共犯論：受講者による報告・議論
 - 第14回 テーマ⑥共犯論：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第15回 演習全体の総括
- ※受講者の関心に応じて、相談の上で内容と順序を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（50%）、演習中の積極的な発言（50%）を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジュメ、その他プレゼンテーションソフトを利用した資料を作成し、事前に大学の学習支援システムにアップロードして下さい。刑法総論および刑法各論を一通り学んでいることが前提とされます。授業終了後には論点をまとめ復習すること。基本的には、刑事法分野で修士論文を執筆する予定の大学院生を念頭においていますが、それ以外の大学院生にも配慮したいと思います。

刑法AI【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事法学 刑法総論 刑法各論

刑法AII【夜】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

刑法AII

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

刑法学における主要なテーマについて、現時点における理論的到達点を把握することを目指します。刑法AIIでは、特に刑法各論のテーマについて議論します。授業の形式は、受講者各位が関心のあるテーマを選択し、テーマごとの基本的文献と関連する文献について、まとめて報告してもらう形になります。その報告を基に、教員および受講者全員で議論をすることで、現在の刑法学の問題関心を明らかにして、修士論文のテーマの設定ないしは明確化に資するようにします。
学期末には、報告を担当した項目について、レポートを提出してもらいます。

教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊東研祐 / 松宮孝明編『リーディングス刑法』（法律文化社、2015年）
この他、受講者の関心に応じて、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の運営方針の説明、受講者によるテーマの選択）
 - 第2回 刑法解釈学の方法論について概説
 - 第3回 テーマ①住居侵入罪：受講者による報告・議論
 - 第4回 テーマ①住居侵入罪：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第5回 テーマ②名誉に対する罪：受講者による報告・議論
 - 第6回 テーマ②名誉に対する罪：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第7回 テーマ③財産犯論・総論：受講者による報告・議論
 - 第8回 テーマ③財産犯論・総論：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第9回 テーマ④詐欺罪：受講者による報告・議論
 - 第10回 テーマ④詐欺罪：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第11回 テーマ⑤背任罪：受講者による報告・議論
 - 第12回 テーマ⑤背任罪：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第13回 テーマ⑥文書偽造罪：受講者による報告・議論
 - 第14回 テーマ⑥文書偽造罪：議論で上がった質問に対する追加報告
 - 第15回 演習全体の総括
- ※受講者の関心に応じて、相談の上で内容と順序を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（30%）、レポート（40%）、演習中の積極的な発言（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジュメ、その他プレゼンテーションソフトを利用した資料を作成し、事前に大学の学習支援システムにアップロードして下さい。
刑法総論および刑法各論を一通り学んでいることが前提とされます。授業終了後には論点をまとめ復習すること。
基本的には、刑事法分野で修士論文を執筆する予定の大学院生を念頭においていますが、それ以外の大学院生にも配慮したいと思います。

刑法AII 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事法学 刑法総論 刑法各論

刑法BI【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

刑法B I

授業の概要 /Course Description

日本の刑法学において近年議論されている重要な理論的問題を各領域から取り上げて考察する。刑法に関する知識を拡充し、刑法理論の理解を深めて、法的思考の基礎を形成することを目的とする。

教科書 /Textbooks

開講後に受講生と相談して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談して決定する。基本的には、対象とする文献を要約することから始めて、問題点、問題状況及び理論状況を明らかにして、刑法理論を考察する。

- 1回 ガイダンス（演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など）
- 2回 Research Paper の意義と作成法
- 3回 担当テーマについての論点と問題の所在の検討
- 4回 担当テーマに関する参考文献の整理と検討
- 5回 規範論と刑罰論(1) 判例・学説の分析
- 6回 規範論と刑罰論(2) 自説の提立と論証
- 7回 構成要件論(1) 判例・学説の分析
- 8回 構成要件論(2) 自説の提立と論証
- 9回 違法論(1) 判例・学説の分析
- 10回 違法論(2) 自説の提立と論証
- 11回 責任論(1) 判例・学説の分析
- 12回 責任論(2) 自説の提立と論証
- 13回 共犯論(1) 判例・学説の分析
- 14回 共犯論(2) 自説の提立と論証
- 15回 最終レポートの提出・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 50% 討論及び発言内容... 50%
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

刑法（刑法総論および刑法各論）をひと通り学んでいること。
摘要の作成など指示された予習を行って授業に臨みなさい。また、授業で指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえで摘要を作成しなさい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので、留意すること。

刑法BI【夜】

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法BII【夜】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

刑法B II

授業の概要 /Course Description

日本の刑法理論の理解を深めるために、比較法的研究として、母法であるドイツ法と英米法系の司法制度と刑法の概要を考察する。

教科書 /Textbooks

- ①Fritz Baur ; fortgeführt von Gerhard Walter, Einführung in das Recht der Bundesrepublik Deutschland., 6., Aufl., München : Beck , 1992.
- ②Claus Roxin/Gunther Arzt/Klaus Tiedemann, Einführung in das Strafrecht und Strafprozeßrecht., 6. Aufl., Heidelberg : C.F. Müller, 2013.
- ③William Geldart/David Yardley, Introduction to English Law, Oxford Univ Press, 1995.
- ④村上淳一 / 守矢健一 / ハンス・ペーター・マルチュケ 『ドイツ法入門（外国法入門双書）』改訂第8版（有斐閣・2012.08）。
- ⑤伊藤正己 / 木下毅 『アメリカ法入門』5版（東京：日本評論社・2012.02）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談して決定する。基本的には、対象とする文献を要約することから始めて、問題点、問題状況及び理論状況を明らかにして、刑法理論を考察する。

- 1 回 ガイダンス（演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など）
- 2 回 ドイツ法の歴史（『ドイツ法入門』）
- 3 回 英米法の歴史（『アメリカ法入門』）
- 4 回 憲法・基本法の比較法的考察（『ドイツ法入門』・『アメリカ法入門』）
- 5 回 刑法の比較法的考察（『ドイツ法入門』・『アメリカ法入門』）
- 6 回 司法制度の比較法的考察（『ドイツ法入門』・『アメリカ法入門』）
- 7 回 8. Crimes (Introduction to English Law.) (1) 講読
- 8 回 8. Crimes (Introduction to English Law.) (2) 検討と摘要の作成
- 9 回 7. Strafrecht (Einführung in das Recht.) (1) 講読
- 10 回 7. Strafrecht (Einführung in das Recht.) (2) 検討と摘要の作成
- 11 回 8. Die Gerichte und gerichtliche Verfahren (Einführung in das Recht.) (1) 講読
- 12 回 8. Die Gerichte und gerichtliche Verfahren (Einführung in das Recht.) (2) 検討と摘要の作成
- 13 回 Der Allgemeine Teil des materiellen Strafrecht (Einführung in das Strafrecht und Strafprozeßrecht.) (1) 講読
- 14 回 Der Allgemeine Teil des materiellen Strafrecht (Einführung in das Strafrecht und Strafprozeßrecht.) (2) 検討と摘要の作成
- 15 回 最終レポートの提出・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 50% 討論及び発言内容... 50%
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

刑法BII 【夜】

履修上の注意 /Remarks

刑法（刑法総論および刑法各論）をひと通り学んでいること。
摘要の作成など指示された予習を行って授業に臨みなさい。また、授業で指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえで摘要を作成しなさい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので、留意すること。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑事学I【夜】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑事学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

刑事学 I

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

「アメリカ犯罪学理論の現状」をテーマとして、以下の文献を輪読・検討します。アメリカ犯罪学研究における理論構築と理論検証の両側面における最新の動向を検討することによって、犯罪学理論に関する知見を深めることが、本授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

Francis T. Cullen, John Paul Wright & Kristie R. Blevins (eds.), Taking Stock: The Status of Criminological Theory. (Advances in Criminological Theory Volume 15), New Brunswick, USA: Transaction Publishers, 2006.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J. Robert Lilly, Francis T. Cullen, & Richard A. Ball, Criminological Theory: Context and Conquences. (5th ed.), Thousand Oaks, CA: Sage Publications, 2010. (その翻訳として、リリー、カレン、& ボール『犯罪学 理論的背景と帰結 第5版』(金剛出版、2013年))

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション(アメリカ犯罪学理論の現状)
- 第2回 社会的学習理論
- 第3回 コントロール理論
- 第4回 総合緊張理論
- 第5回 制度的アノミー理論
- 第6回 集会的効力理論
- 第7回 ラディカル犯罪学
- 第8回 ピースメーカー犯罪学
- 第9回 ライフコース犯罪学
- 第10回 Sampson and Laubのライフコース理論
- 第11回 発達論的およびライフコース理論の構築
- 第12回 抑止理論のメタ分析
- 第13回 修復的司法と犯罪
- 第14回 犯罪理論と矯正的介入との関係
- 第15回 犯罪学理論の実証性の評価

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

刑事法学の一層深く理解したい場合は、刑法および刑事訴訟法などの関連科目の受講をお勧めします。

英語文献を多読するので、相応の語学力・読解力を必要とします。

テキストの指定された箇所をあらかじめ読み込んでおくこと。授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

学部において「犯罪学」や「刑事司法政策I & II」を履修済みであることが望ましい。

刑事学I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学II 【夜】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑事学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

刑事学II

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

「刑事学調査研究方法論」をテーマとして、将来実証的調査研究を実施するうえで必要不可欠な基本的な調査方法上の諸問題について検討します。アメリカ犯罪学・刑事司法政策の大学院プログラムにおいてテキストとしてよく利用されている基本文献を読み、定量的および定性的調査研究の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

E.バビー著（渡邊聡子監訳）『社会調査法 1 基礎と準備編』（培風館、2003年）
E.バビー著（渡邊聡子監訳）『社会調査法 2 実施と分析編』（培風館、2005年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Earl E. Babbie, The Practice of Social Research, (13 ed.), Wadsworth Publishing, 2012.
中道實『社会調査方法論』（恒星社厚生閣、1997年）
Michael G. Maxfield & Earl R. Babbie, Research Methods for Criminal Justice and Criminology (with CD-ROM and InfoTrac).(7th ed.), Wadsworth Publishing, 2014.
Jacinta M. Gau, Statistics for Criminology & Criminal Justice, 2nd ed., Sage, 2015.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会科学の基礎
- 第2回 社会調査の倫理
- 第3回 理論と社会調査
- 第4回 社会調査における因果関係、小テスト①
- 第5回 調査設計
- 第6回 概念化、操作化、および測定
- 第7回 指数、尺度および類型
- 第8回 標本抽出の論理、小テスト②
- 第9回 実験法
- 第10回 質問紙調査
- 第11回 質的フィールド調査
- 第12回 資料分析
- 第13回 基礎的な数量分析
- 第14回 精密化（エラボレーション）
- 第15回 社会統計、小テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% 小テスト3回...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

刑事学II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

テキストの指定された箇所をあらかじめ読み込んでおくこと。授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

修士課程レベルでは実証研究を自ら実施することまでは要求しません。しかし、先行研究における各種実証研究の方法論的な批判ができる程度にまでの知識および理解が求められます。本授業の到達目標としては、研究テーマの選定、先行研究の検討、調査設計の段階まではできるように努力しましょう。

キーワード /Keywords

労働法I【夜】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、労働法分野の知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力と多角的な視点から、労働問題の解決策に関する議論を展開することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

労働法I

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

Winlow and Hall, Rethinking Social Exclusion(SAGE 2013)を輪読しながら、現代社会における社会的排除と包摂の意義を考えます。また、そうした議論を通じて労働法や社会保障法と社会的排除の関わりを議論します。社会的排除・包摂についての基本的視野を身に付け、現代社会の課題を分析する視点を養います。

教科書 /Textbooks

Winlow and Hall, Rethinking Social Exclusion(SAGE 2013)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、報告者の割当
- 第2回 担当者による報告と議論【Post-crash Social Exclusion】
- 第3回 担当者による報告と議論【Social Exclusion: The European Tradition】
- 第4回 担当者による報告と議論【Social Exclusion: The US Tradition】
- 第5回 担当者による報告と議論【Re-positioning Social Exclusion】
- 第6回 担当者による報告と議論【Politics at the End of History】
- 第7回 担当者による報告と議論【A Reserve Army of Labour】
- 第8回 担当者による報告と議論【A Reserve Army of Consumers】
- 第9回 担当者による報告と議論【Occupying Non-places】
- 第10回 担当者による報告と議論【Exclusion from What?】
- 第11回 担当者による報告と議論【Conclusion】
- 第12回 担当者による報告と議論【労働法と社会的排除の関係】
- 第13回 担当者による報告と議論【解雇規制と社会的排除の関係】
- 第14回 担当者による報告と議論【非正規労働と社会的排除の関係】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発言の度合い、報告内容を総合的に評価します(発言の度合い...50%、報告...50%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英語の文献を輪読しますので、若干の英語力は必要です。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

労働法I【夜】

キーワード /Keywords

社会的排除、労働法、社会保障法

労働法Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、労働法分野の知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力と多角的な視点から、労働問題の解決策に関する議論を展開することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

労働法Ⅱ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、最近の労働判例を取り上げ、分析、検討を行います。報告者による判例報告の後にディスカッションを行う形で講義を進めます。最近の労働判例を批判的な観点に基づいて分析、検討することにより、労働法の知識を習得し、望ましい労働紛争の解決のための視点を養うところに本講義の目的があります。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 報告者による判例報告【労働契約における労働者性】
- 第3回 報告者による判例報告【労働組合法上の労働者性】
- 第4回 報告者による判例報告【労働契約における使用者性】
- 第5回 報告者による判例報告【労働組合法上の使用者性】
- 第6回 報告者による判例報告【採用内定、試用期間】
- 第7回 報告者による判例報告【就業規則の不利益変更】
- 第8回 報告者による判例報告【労働協約の不利益変更】
- 第9回 報告者による判例報告【整理解雇】
- 第10回 報告者による判例報告【期間雇用の雇止め】
- 第11回 報告者による判例報告【労働者派遣法】
- 第12回 報告者による判例報告【人事異動】
- 第13回 報告者による判例報告【懲戒処分】
- 第14回 報告者による判例報告【男女差別禁止法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、発言の度合い...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告者が周到な準備をしてくることは当然ですが、報告者でない学生諸君にも、毎回、自らの考えや意見を提示していただきます。授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画は、受講者の希望に応じて柔軟に変更いたします。

労働法II【夜】

キーワード /Keywords

社会保障法I【夜】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者や高度専門職業人として活躍するために必要な社会保障法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題に対し、法学的観点から分析し議論を展開することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会保障法I

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講者による報告・討論を行う。
受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

教科書 /Textbooks

使用しない。受講者の関心に応じ、適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。
具体的な進行の仕方や内容等については、受講生と相談の上決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初回テーマの設定・文献の選択
- 第3回 テーマ①（年金領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第4回 テーマ①に関する文献の講読・討論（2）～各論点に関する分析～
- 第5回 テーマ①に関する文献の講読・討論（3）～他の視点の提示と比較分析～
- 第6回 テーマ①のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第7回 テーマ②（生活保護領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第8回 テーマ②に関する文献の講読・討論（2）～各論点分析～
- 第9回 テーマ②に関する文献の講読・討論（3）～他の視点提示と比較分析～
- 第10回 テーマ②のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第11回 テーマ③（労働保険領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第12回 テーマ③に関する文献の講読・討論（2）～各論点分析～
- 第13回 テーマ③に関する文献の講読・討論（3）～他の視点提示と比較分析～
- 第14回 テーマ③に関するまとめ
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。
必要に応じてレポートを課すこともある。

受講態度等参加の度合い...50% 報告内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

社会保障法I【夜】

履修上の注意 /Remarks

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法Ⅱ【夜】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者や高度専門職業人として活躍するために必要な社会保障法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題に対し、法学的観点から分析し議論を展開することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会保障法Ⅱ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講者による報告・討論を行う。
受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

教科書 /Textbooks

使用しない。受講者の関心に応じ、適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。
具体的な進行の仕方や内容等については、受講生と相談の上決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初回テーマ・文献の選択
- 第3回 テーマ①（高齢者福祉領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第4回 テーマ①に関する文献の講読・討論（2）～各論点分析～
- 第5回 テーマ①に関する文献の講読・討論（3）～他の視点提示と比較分析～
- 第6回 テーマ①のまとめと次回テーマ・文献の選択
- 第7回 テーマ②（障害者福祉領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第8回 テーマ②に関する文献の講読・討論（2）～各論点分析～
- 第9回 テーマ②に関する文献の講読・討論（3）～他の視点提示と比較分析～
- 第10回 テーマ②のまとめと次回テーマ・文献の選択
- 第11回 テーマ③（児童福祉領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第12回 テーマ③に関する文献の講読・討論（2）～各論点分析～
- 第13回 テーマ③に関する文献の講読・討論（3）～他の視点提示と比較分析～
- 第14回 テーマ③のまとめ
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。
必要に応じてレポートを課すこともある。

受講態度等参加の度合い...50% 報告内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

社会保障法II【夜】

履修上の注意 /Remarks

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、国際法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		国際法I

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、人権にかかわる国際法の判断を含む日本の国内裁判所の判決を取り上げ、検討を行っていくことを通じ、国際人権法に関する基本的知識やその運用の実態の理解を深めるとともに、日本における人権の保障状況について考える力を養うことを目的としています。受講者の国際法の習熟度にもよりますが、まずは国際人権保障システムの現状や国内法制と国際法との関係など、背景知識となる総論部分の理解を深める作業を行います。次に日本の国内裁判所の判決の検討作業を通じ、国際的な人権基準が具体的事案の中で実際にどのように国内に適用されていくのかについての理解を深める作業を行っていきます。国際法Iでは、女子差別撤廃条約に焦点を当てます。実際にどのような判決を読むかは、受講者と相談の上、決定していくこととします。

教科書 /Textbooks

テキストは、とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック国際人権法』（日本評論社・2006年）○
 芹田健太郎＝薬師寺公夫＝坂元茂樹編『ブリッジブック国際人権法』（信山社・2008年）
 その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 判例検索システムの利用方法，研究対象判例の選定
- 第3回 国連と人権の国際的保障枠組み
- 第4回 国際人権保障システム① 【基準設定活動】
- 第5回 国際人権保障システム② 【監視活動（UPR，Treaty Bodyにおける報告制度等）】
- 第6回 国際法と国内法との関係 【二元論と一元論】 【受容と変型】 【条約の国内適用：自動執行力】
- 第7回 判例研究I①（精読：事実関係の明確化）
- 第8回 判例研究I②（精読：争点の整理，論点の抽出）
- 第9回 判例研究I③（報告担当者による判例報告）
- 第10回 判例研究II①（精読：事実関係の明確化）
- 第11回 判例研究II②（精読：争点の整理，論点の抽出）
- 第12回 判例研究II③（報告担当者による判例報告）
- 第13回 判例研究III①（精読：事実関係の明確化）
- 第14回 判例研究III②（精読：争点の整理，論点の抽出）
- 第15回 判例研究III③（報告担当者による判例報告）

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際法I【夜】

履修上の注意 /Remarks

クラスへの参加にあたっては、アサインメントに従い、十分な予習が求められます。授業終了後には論点をまとめ復習すること。学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組立にも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国内裁判所でも、判決を出す場合に、国際法の適用が問題になるケースが多々あります。「なま」の判決を一緒に紐解いていってみませんか。

キーワード /Keywords

【国際人権法】 【実体法と手続法】 【基準設定活動】 【監視活動】 【国際法と国内法との関係】 【国内裁判所】 【判決】 【女子差別撤廃条約】

国際法Ⅱ【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、国際法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		国際法Ⅱ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国連の設立基本条約である国連憲章を取り上げ、それを逐条的に検討していくことを通じ、国際機構法についての理解を深めることを目的とします。国連憲章の条文ごとに、同規定はどのように一般的に解されているのか、また、同規定に対する国連の実行はどのような特徴を示しているのか、について検討していきます。
2014年度は、とくに事務局の組織や活動と関連する国連憲章の条項について取り上げようと考えています。

教科書 /Textbooks

Bruno Simma, The Charter of the United Nations; A Commentary, Oxford Univ. Press, 1994
United Nations, Repertory of Practice of the United Nations, On web-site, www.un.org

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田岡良一『国際連合憲章の研究』（有斐閣，1949年）○
藤田久一『国連法』（東京大学出版会，1998年）○
なお、その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 United Nations, Repertory of Practice of the United Nationsの利用の仕方
- 第3回 国際司法裁判所の組織構造
- 第4回 国際司法裁判所の機能①：判決 (Judgement)
- 第5回 国際司法裁判所の機能②：勸告的意見(Advisory Opinion)
- 第6回 国連の実行の検討 国連憲章第97条① Bruno Simma
- 第7回 国連の実行の検討 国連憲章第97条② UN Reprtory
- 第8回 国連の実行の検討 国連憲章第98条① Bruno Simma
- 第9回 国連の実行の検討 国連憲章第98条② UN Reprtory
- 第10回 国連の実行の検討 国連憲章第99条① Bruno Simma
- 第11回 国連の実行の検討 国連憲章第99条② UN Reprtory
- 第12回 国連の実行の検討 国連憲章第100条① Bruno Simma
- 第13回 国連の実行の検討 国連憲章第100条② UN Reprtory
- 第14回 国連の実行の検討 国連憲章第101条① Bruno Simma
- 第15回 国連の実行の検討 国連憲章第101条② UN Reprtory

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ある程度の英語の力が必要となります。1週間に10ページ程度の資料を読んでいくため、クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められることになります。授業終了後には論点をまとめ復習すること。
学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組み立てにも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。
まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

国際法II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国連憲章の条文を日本語と英語で比較検討してみたことがありますか。語句（単語）どうしの相関関係を理解しておく、国連に関する英語の資料を読むのが少しは楽になりますよ。また国連憲章の正文には、英語のほかに、中国語、フランス語、ロシア語、スペイン語で書かれたものがあります（あとアラビア語も公用語にはなっています）ので、いかがですか。

キーワード /Keywords

【国際司法裁判所（ICJ）】【国連憲章】【国際司法裁判所規程】【判決】【拘束力】【履行と執行】【勧告的意見】【法律問題】【要請できる機関】

日本法制史I【夜】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、日本法制史分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本法制史I

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

東洋・西洋を問わず様々な法と制度の影響を受けて形成されてきた日本の法を考える上で、その歴史的前提に遡って検討を加えることは、現代法をより深く理解するうえで有益な営為であると考えられます。
本科目は、近代日本法の前提をなすが国の法制やそれを支えた権力の特質について、特に江戸時代の刑事法及び行政関連諸法の形成や運用の実態を中心として学んでいきます。学習にあたっては、指定のテキストを出発点としつつも、西欧法制や明治期以降の日本の法や権利をめぐる諸問題との積極的な比較を行っていく予定です。
またこうした学習を行っていくにあたり、情報検索やプレゼンテーションの方法論についても意識的に取り組んでいきます。

教科書 /Textbooks

高塩博『近世刑罰制度論考—社会復帰を目指す自由刑』（成文堂・2013年）
このほか、進度に応じて適宜指定します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』（青林書院・2010年）(図書館蔵書：○)
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』（山川出版社・2001）(図書館蔵書：○)
このほか参加者の興味関心に応じ、適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についての小講義を行います。
- 第3回 各参加者による報告・議論【参考図書「序章」】
- 第4回 各参加者による報告・議論【参考図書「第一章：松平藩の「溜」制度について」】
- 第5回 各参加者による報告・議論【参考図書「第二章：丹後田辺藩の「徒罪」について」】
- 第6回 各参加者による報告・議論【参考図書「第三章：丹後田辺藩の博打規定と「徒罪」】】
- 第7回 各参加者による報告・議論【参考図書「第四章：津藩の「揚り者」という刑罰】】
- 第8回 中間総括（これまでの報告範囲を振り返ります）
- 第9回 各参加者による報告・議論【参考図書「第五章：庄内藩の「人足溜場」について」】
- 第10回 各参加者による報告・議論【参考図書「第六章：長岡藩の「寄場」について」】
- 第11回 各参加者による報告・議論【参考図書「第六章補遺：長岡藩「寄場」に関する史料紹介】】
- 第12回 各参加者による報告・議論【参考図書「附：和歌山藩の徒刑策草案】】
- 第13回 各参加者による報告・議論【参考文献のまとめ】
- 第14回 参考文献関連テキストの確認と紹介
- 第15回 演習全体の総括討論

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。
1. 演習における議論への参加状況(30%)
 2. 演習における報告(30%)
 3. 期末レポート(40%)

日本法制史I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【事前学習】

報告担当者は事前にレジюмеを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。

【事後学習】

演習中でなされた議論を整理して期末レポートに備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

【その他】

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史 / 近世法制史 / 幕府法 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

日本法制史Ⅱ【夜】

担当者名 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、日本法制史分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本法制史Ⅱ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本科目は、1学期開講科目「日本法制史Ⅰ」に引き続いて、近代日本法の前提をなすわが国の法制やそれを支えた権力の特徴について、特に江戸時代の法と権利をめぐる諸問題について統治と支配の要請という視点から検討を行っていく予定です。

教科書 /Textbooks

石井紫郎『日本人の法生活』（東京大学出版会・2012年）
このほか、進度に応じて適宜指定します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』（青林書院・2010年）(図書館蔵書：○)
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』（山川出版社・2001）(図書館蔵書：○)
このほか参加者の興味関心に応じ、適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 各参加者による報告・議論【教科書第1章「日本人のアイデンティティと歴史認識覚書」】
- 第3回 各参加者による報告・議論【教科書第2章「「イエ」と「家」】】
- 第4回 各参加者による報告・議論【教科書第3章「戦士身分と正統な支配者」】
- 第5回 各参加者による報告・議論【教科書第4章「財産と法」】
- 第6回 各参加者による報告・議論【教科書第5章「ゲヴェーレの学説史に関する一試論」】
- 第7回 各参加者による報告・議論【教科書第6章「「知行」論争の学説史的意義」】
- 第8回 中間総括（これまでの報告範囲を振り返ります）
- 第9回 各参加者による報告・議論【教科書第7章「「知行」小論」】
- 第10回 各参加者による報告・議論【教科書第8章「西欧近代的所有権概念継受の一齣」】
- 第11回 各参加者による報告・議論【教科書第9章「占有訴権と自力救済」】
- 第12回 各参加者による報告・議論【教科書第10章「「かむやらひ」と「はらへ」】】
- 第13回 各参加者による報告・議論【教科書第11章「外から見た盟神探湯」】
- 第14回 各参加者による報告・議論【教科書第13章「古代国家の刑事「裁判」素描」】
- 第15回 演習全体の総括討論

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。
1. 演習における議論への参加状況(30%)
 2. 演習における報告(30%)
 3. 期末レポート(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本法制史II【夜】

履修上の注意 /Remarks

【事前学習】

報告担当者は事前にレジユメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。

【事後学習】

演習中でなされた議論を整理して期末レポートに備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

【その他】

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史 / 近世法制史 / 幕府法 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

法哲学I【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法哲学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

法哲学I

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義のテーマとする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談して決定する。

教科書 /Textbooks

具体的なテキストの候補の一つとして、現代ドイツにおける社会哲学の第一人者とも言うユルゲン・ハーバーマスの『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論に关する研究-(上)』（未来社）を想定している。ただし、これはあくまでも暫定的なものであり、テキストの選定や具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ~ テキスト選択など
- 第2回 選択したテキストについての概要報告
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【事実性と妥当性】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【法的妥当性】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【社会学的法理論】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【哲学的正義論】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【私的自律と公的自律】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【討議原理と民主主義原理】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【コミュニケーション的権力】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【法治国家の諸原理】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【法の不確定性】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【裁判の合理性】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【自由主義的法パラダイム】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【憲法裁判】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやノートやレジュメをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

法哲学I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法 権利 正義

法哲学II【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法哲学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

法哲学II

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義の主題とする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

教科書 /Textbooks

具体的なテキスト・内容は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。暫定的には、ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論に关する研究-(下)』（未来社）、またはヘーゲル（上妻精他訳）『法の哲学（上巻）（下巻）』（岩波書店）のうち、いずれか一方の精読・検討を候補として考えている。ただし、受講生と相談のうえ、受講生の問題関心に応じて、上記以外のテキストをとりあげる場合もある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ~ テキスト選択など
- 第2回 選択したテキストについての概要報告
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【協議的政治】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【民主的手続きと中立性】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【政治的公共圏】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【権力循環】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【公共的意見】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【私法の実質化】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【法的平等と事実に基づく平等】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【手続き主義的法理解】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【合法性による正統性】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【法治国家の理念】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【手続きとしての国民主権】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【ナショナル・アイデンティティ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやノートやレジュメをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法哲学II 【夜】

キーワード /Keywords

法 権利 正義

法律実務特講I【夜】

担当者名 奥田・阿野・末廣
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法律実務の知識を修得する。
技能	○	法律実務の実際を理解し、多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度	○	理論と実務とのつながりを理解し、現実社会で生起する法律問題に積極的かつ柔軟に対処する姿勢を身につける。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

法律実務特講I

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

- ① 刑事事件における実務上の諸問題（担当 弁護士阿野寛之）
- ② 法律相談の実務（担当 弁護士奥田克彦）
- ③ マンションの法律問題（担当 弁護士末廣清二）

教科書 /Textbooks

なし。講義の際にレジメを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 購読を要しない。
木谷明（編著）「刑事事実認定の基本問題・第2版」
石井一正「刑事事実認定入門・第2版」
植村立郎「実践的刑事事実認定と状況証拠」
- ②, ③については講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 刑事事実認定をめぐる諸問題
第1回 刑事事件における事実認定のあり方
第2回 目撃供述（犯人識別供述）の信用性
第3回 状況証拠による事実認定
第4回 刑事裁判における「自白」
第5回 違法収集証拠排除法則
- ② 法律相談に際して生ずる諸問題について検討する。
第1回 弁護士業務における「法律相談」の占める位置（法律相談は入り口である。）
第2回 典型的な民事事件の相談事案（具体的事件に即し）
第3回 家事事件（夫婦関係・相続問題）相談事案（同上）
第4回 交通事故・刑事事件の法律相談（同上）
第5回 ひるがえって、改めて法律相談の位置づけについて・その他
- ③ マンションをめぐる法律問題
第1回 区分所有建物とは何か
第2回 専有部分と共用部分
第3回 管理組合
第4回 管理者制度
第5回 管理者の権限

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポートいずれかで評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法律実務特講I【夜】

履修上の注意 /Remarks

上記①は刑事法，上記②③は民事法の基礎的知識を前提とするものであるから，各自学部で習ったことを復習しておくこと。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法特別研究I【夜】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、憲法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、憲法分野について主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

憲法特別研究 I

授業の概要 /Course Description

受講者の研究テーマに応じて、関連する憲法学的知見を学び、学説、判例を検討し、問題意識を深めることを通じて、修士論文ないし特定課題研究へ向けた準備を行うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究テーマに応じて、適宜指導する

憲法特別研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス -講義の概要説明
- 第2回 研究テーマの確認
- 第3回 取り上げる文獻や判決の決定
- 第4回 基本書読解① -研究テーマに関する部分の報告I【基礎】
- 第5回 基本書読解② -前回報告に基づく議論・検討I【基礎】
- 第6回 基本書読解③ -研究テーマに関する部分の報告II【発展】
- 第7回 基本書読解④ -前回報告に基づく議論・検討II【発展】
- 第8回 専門文献読解① -研究テーマに関する専門文献の報告I【基礎】
- 第9回 専門文献読解② -前回報告に基づく議論・検討I【基礎】
- 第10回 専門文献読解③ -研究テーマに関する専門文献の報告II【発展】
- 第11回 専門文献読解④ -前回報告に基づく議論・検討II【発展】
- 第12回 専門文献読解⑤ -研究テーマに関する専門文献の報告III【応用】
- 第13回 専門文献読解⑥ -前回報告に基づく議論・検討III【応用】
- 第14回 研究テーマの再検討
- 第15回 前半のまとめ
- 第16回 判例研究① -研究テーマに関連する判決の報告I【基礎】
- 第17回 判例研究② -前回報告に基づく議論・検討I【基礎】
- 第18回 判例研究③ -研究テーマに関連する判決の報告II【発展】
- 第19回 判例研究④ -前回報告に基づく議論・検討II【発展】
- 第20回 判例研究⑤ -研究テーマに関連する判決の報告III【応用】
- 第21回 判例研究⑥ -前回報告に基づく議論・検討III【応用】
- 第22回 論文作成へ向けて① -テーマの明確化
- 第23回 論文作成へ向けて② -全体構成
- 第24回 論文作成へ向けて③ -テーマと全体構成の関連
- 第25回 論文作成へ向けて④ -全体構成と章立て
- 第26回 論文作成へ向けて⑤ -収集文献・資料の再検討I【基本資料編】
- 第27回 論文作成へ向けて⑥ -収集文献・資料の再検討II【文献編】
- 第28回 論文作成へ向けて⑦ -収集文献・資料の再検討III【判例編】
- 第29回 論文作成へ向けて⑧ -工程表の確定
- 第30回 全体のまとめ

ただし、これは例示である。具体的には受講者のテーマや進行状況に応じて相談の上で決定していく。

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の研究報告内容：50%、議論・検討への参加状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、各回の課題や研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。それをもとにして議論を行い、次回の報告に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法特別研究I【夜】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース(法律学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、民法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、民法分野について主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

民法特別研究I

授業の概要 /Course Description

民法の中の物権の分野について研究をしたい。物権分野の数々の論点について、いわゆる判例や学説(海外のそれも含む。)の議論を見ながら、私見を考えてゆく。この科目は、主として研究者を目指す人が履修する科目であるので、研究者の議論を重視し、参加者による報告を基礎に進めてゆきたい。
この科目を履修することで、研究者の視点で民法を考える能力が養われるであろう。

教科書 /Textbooks

物権法の本であれば、なんでも良い。と言うか、物権法の主要な本(海外のものも含む。)はすべて見る必要がある。図書館で、随時、物権に関連する書籍を参照してほしい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 我妻栄『近代法における債権の優越的地位』(有斐閣)
- 川島武宜『所有権法の理論』(岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 ガイダンス | 2 物権と債権の違いに関する諸問題 |
| 3 物権法定主義をめぐる諸問題 | 4 慣習法上の物権をめぐる諸問題 |
| 5 物権的請求権をめぐる諸問題 | 6 物権行為をめぐる諸問題 |
| 7 所有権の移転時期をめぐる諸問題 | 8 公示制度をめぐる諸問題 |
| 9 登記請求権をめぐる諸問題 | 10 177条の第三者の客観的範囲をめぐる諸問題 |
| 11 177条の第三者の主観的範囲をめぐる諸問題 | 12 無効・取消・解除と登記をめぐる諸問題 |
| 13 相続と登記をめぐる諸問題 | 14 時効と登記をめぐる諸問題 |
| 15 中間省略登記をめぐる諸問題 | 16 動産物権変動をめぐる諸問題 |
| 17 即時取得をめぐる諸問題 | 18 占有をめぐる諸問題 |
| 19 所有権の意義をめぐる諸問題 | 20 相隣関係・囲繞地通行権をめぐる諸問題 |
| 21 付合・混和・加工をめぐる諸問題 | 22 共有をめぐる諸問題 |
| 23 用益物権をめぐる諸問題 | 24 留置権をめぐる諸問題 |
| 25 先取特権をめぐる諸問題 | 26 質権をめぐる諸問題 |
| 27 抵当権をめぐる諸問題 | 28 物上代位をめぐる諸問題 |
| 29 譲渡担保をめぐる諸問題 | 30 その他の非典型担保をめぐる諸問題 |

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の報告(50%)とレポート(50%)で評価する。レポートは、学期終了時に提出してもらう。テーマは、物権法の中で特に興味を持った点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日々、民法関連の本を読むことが望まれる。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

民法特別研究I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究者を目指す場合、上記2冊は「必読」文献であり、この2冊をきちんと読むことが、そもそもの出発点である。

キーワード /Keywords

物権、担保物権

民法特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、民法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、民法分野について主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

民法特別研究I

授業の概要 /Course Description

「研究者コース」の院生に論文指導をすることを目的とした授業です。各自の研究に役立つ範囲で、ドイツ民法又はフランス民法に関する外国文献と一緒に読もうと思っています。

教科書 /Textbooks

指定はありません。外国文献を購読する場合にはコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究テーマ策定
- 3回 研究方法の検討
- 4回 資料調査 - 邦語基本文献・資料の選択
- 5回 資料調査 - 外国語基本文献・資料の選択
- 6回 資料調査 - 判例【国内】
- 7回 資料調査 - 判例【外国】
- 8回 邦語文献【基本書籍】精読・検討
- 9回 邦語文献【関係書籍】精読・検討
- 10回 邦語文献【基本論文】精読・検討
- 11回 邦語文献【関係論文】精読・検討
- 12回 邦語補充文献【関係書籍】精読・検討
- 13回 邦語補充文献【関係論文】精読・検討
- 14回 邦語文献による論点整理・検討
- 15回 研究内容の中間報告、夏季休暇中の課題確認
- 16回 判例の読み方、研究・活用の仕方
- 17回 基本判例の精読
- 18回 基本判例の検討
- 19回 関連判例の精読【最高裁判例】
- 20回 関連判例の検討【最高裁判例】
- 21回 関連判例の精読【下級審判例】
- 22回 関連判例の検討【下級審判例】
- 23回 判例の整理・活用の仕方の検討
- 24回 外国語文献の活用の仕方
- 25回 外国語基本文献の精読
- 26回 外国語基本文献の内容報告
- 27回 外国語関係文献の精読
- 28回 外国語関係文献の内容報告
- 29回 外国語文献の内容整理・活用の仕方の検討
- 30回 これまでの研究成果のまとめと次年度に向けた作業内容の確認

民法特別研究I【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・10% レポート(2000字詰め原稿用紙30枚程度)・・・90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生が主体的に取り組むものでなければ研究成果は得られません。研究計画に沿って、自ら積極的に報告するとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告に当たってはレジюмеを作成してください。報告者以外の方も判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学特別研究I【夜】

担当者名 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース(法律学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、刑事学分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、刑事学分野について主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

刑事学特別研究I

授業の概要 /Course Description

受講生の選択した研究テーマについて、主に理論的および方法論的問題に焦点をあてて、英米の重要文献を批判的に検討する。上記の検討を踏まえて、各自の研究テーマに即した「リサーチ・デザイン」の検討・作成に取り組む。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(修士論文とは)
- 第2回 修士論文執筆の作法
- 第3回 研究者の倫理
- 第4回 関心領域(暫定的研究テーマ)の確認
- 第5回 リサーチ・デザインの策定
- 第6回 文献調査(1)――邦語文献収集
- 第7回 文献調査(2)――外国語文献収集
- 第8回 文献調査(3)――第一次文献リスト作成
- 第9回 参考文献についての解説・助言
- 第10回 その他の文献・資料などの分析・検討
- 第11回 テーマの確定
- 第12回 問題設定
- 第13回 分析枠組――論文構成の検討
- 第14回 論文の体裁についての指導
- 第15回 プロスペクタスの提出
- 第16回 中間報告①序論
- 第17回 中間報告②問題設定についての論評及び修正
- 第18回 中間報告③過去の研究又は文献の検討
- 第19回 中間報告④過去の研究又は文献の検討についての論評及び修正
- 第20回 中間報告⑤理論的枠組の検討
- 第21回 中間報告⑥理論的枠組についての論評及び修正
- 第22回 中間報告⑦分析方法の検討
- 第23回 中間報告⑧分析方法についての論評及び修正
- 第24回 中間報告⑨分析結果
- 第25回 中間報告⑩分析結果についての論評及び修正
- 第26回 中間報告⑪結論及び考察
- 第27回 中間報告⑫結論及び考察についての論評及び修正
- 第28回 最終報告
- 第29回 最終報告についての論評及び修正
- 第30回 論文の完成及び提出

刑事学特別研究I 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

修士論文作成の基礎づくりのために、刑事法関連科目の受講を薦めます。
社会科学系大学院生向けの「論文の書き方について」の教本を一冊手元に置いておくことが論文執筆には有益です。
論文の体裁については、各専門領域の学会誌・機関誌の投稿規程(執筆ガイドライン)などを参照しておくことが望まれる。
自ら選択したテーマについて、積極的に自習するなどして、主体的に研究を進めていくこと。授業終了後には指導教員からのコメントを踏まえ、必要であれば研究計画の修正を図るなど、次回までの授業につながるよう各自の研究内容の整理検討を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

修士課程レベルでは自らデータを収集・分析して実証研究を実施することまでは要求しません。むしろ、重点は、先行研究における各種実証研究の方法論的な批判ができる程度にまでの十分な知識および理解が求められます。本授業の到達目標としては、修士論文としての研究テーマの選定、先行研究の検討、および調査設計の段階までは到達できることば望まれます。

キーワード /Keywords

社会保障法特別研究I 【夜】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース(法律学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、社会保障法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から説得力ある法的議論を展開できる。
態度	◎	自ら問題を発見し、法的観点から分析・議論することを通じて、主体的な研究態度を身につける。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

社会保障法特別研究I

授業の概要 /Course Description

受講生の研究テーマに応じて、社会保障法分野における基本文献、判例、関連資料等の研究を行い、修士論文作成に向けた具体的な指導を行う。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。
受講生のテーマに即した資料等の配布予定あり。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス -講義の概要説明
- 第2回 研究テーマの確認
- 第3回 取り上げる文献や判決の決定
- 第4回 基本文献読解① ~研究テーマに関する部分の報告【健康保険】
- 第5回 基本文献読解② ~前回報告に基づく議論・検討
- 第6回 基本文献読解③ ~研究テーマに関する部分の報告【国民健康保険】
- 第7回 基本文献読解④ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第8回 専門文献読解① ~研究テーマに関する専門文献の報告【高齢者医療保険】
- 第9回 専門文献読解② ~前回報告に基づく議論・検討
- 第10回 専門文献読解③ ~研究テーマに関する専門文献の報告【医療保障システム比較】
- 第11回 専門文献読解④ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第12回 専門文献読解⑤ ~研究テーマに関する専門文献の報告【保険制度比較】
- 第13回 専門文献読解⑥ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第14回 研究テーマの再検討と今後の修論執筆計画策定
- 第15回 1学期のまとめ
- 第16回 専門文献読解⑦ ~研究テーマに関連する専門文献の報告【国民保健制度比較】
- 第17回 専門文献読解⑧ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第18回 専門文献読解⑨ ~研究テーマに関連する専門文献の報告【医療保障の財源論】
- 第19回 専門文献読解⑩ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第20回 専門文献読解⑪ ~研究テーマに関連する専門文献の報告【医療保障請求権】
- 第21回 専門文献読解⑫ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第22回~第25回 修士論文作成支援① ~テーマの明確化、全体構成の検討
- 第26回~第29回 修士論文作成支援② ~収集文献・資料の検討と具体的進行計画の策定
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告の内容・・・50%、議論・調査への参加状況・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

社会保障法特別研究I【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究テーマに応じて、授業進行を変更することもある。
修士論文作成に向けて、各自の研究を着実にコツコツ進めるよう努力してください。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法特別研究I【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、国際法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、国際法分野について主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際法特別研究 I

授業の概要 /Course Description

受講者の修士論文の作成を支援することを目的とします。

本講義は、修士論文の作成にあたり、それぞれが選んだテーマとの関連で、必要な国際法上の議論に触れ、その理解を深めるための機会を提供するものです。

受講者が一人の場合には、個別指導の形式を取り、授業を展開します。したがってこの場合には、各自の問題関心領域のみを勉強してもらっていっこうに構いません。しかし、受講者が複数いる場合には、演習形式の科目である以上、各受講者には、他の受講者が希望するテーマ、文献等を尊重し、積極的に協力する義務が存在します。つまり、仮に自分の問題関心領域とは異なったテーマであったとしても、他の受講者の研究にも興味を持ち、その発表等に対し、質疑などを通じ、積極的に協力していただきたいということです。受講を希望する者は、このことは忘れてください。

教科書 /Textbooks

必要に応じ、受講希望者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

国際法特別研究I 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の能力・人数等を考慮し、受講者と調整をはかりながら、柔軟に運営していきます。

1年めの指導計画・内容(ほぼ初学者・単独の場合)を例示する。

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 修士論文で扱いたいテーマの確認
- 第3回 テーマに関する資料収集① 邦語文献【書籍・論文】
- 第4回 テーマに関する資料収集② 外国語文献【書籍・論文】
- 第5回 テーマに関する資料収集③ WEB【国内の公的機関等】
- 第6回 テーマに関する資料収集④ WEB【外国の公的機関等】
- 第7回 テーマに関する資料収集⑤ WEB【国際機関】
- 第8回 テーマに関する資料収集⑥ 判例【国内】
- 第9回 テーマに関する資料収集⑦ 判例【外国・国際】
- 第10回 邦語文献を用いた研究の進め方
- 第11回 邦語文献の精読①【前半部分】
- 第12回 邦語文献の精読②【後半部分】
- 第13回 レジユメを用いた邦語文献の「報告」① 【論文A】
- 第14回 レジユメを用いた邦語文献の「報告」② 【論文B】
- 第15回 1学期進捗状況の振り返りと夏季休暇中の作業の確認
《夏季休暇》
- 第16回 判例を用いた研究の進め方
- 第17回 判例研究① 判決文の精読【原告・被告】
- 第18回 判例研究② 判決文の精読【裁判官】
- 第19回 判例研究③ 原判決等との比較検討
- 第20回 判例研究④ 判例評釈等の活用
- 第21回 レジユメを用いた判例研究の「報告」
- 第22回 外国語文献を用いた研究の進め方① 語学力の確認
- 第23回 外国語文献を用いた研究の進め方② パラグラフリーディングと論文構造の把握(一読によるあらレジユメの作成)
- 第24回 外国語文献の精読①【Introduction, Chapter1】
- 第25回 外国語文献の精読②【Chapter2】
- 第26回 外国語文献の精読③【Chapter3】
- 第27回 外国語文献の精読④【Chapter4, Conclusion】
- 第28回 レジユメを用いた外国語文献の「報告」
- 第29回 修士論文で扱いたいテーマの明確化
- 第30回 2学期進捗状況の振り返りと2年次に向けての作業の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。なお担当者は、国際公法分野を専門としています。問題関心領域の関連等で、何か質問・懸念等があれば、事前に相談に来られてください。まずは ninomiya@kitakyu-u.ac.jp まで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院の修士時代に、一番勉強した(させられた)という記憶が残っています。確かに大変でしたが、知的好奇心が満たされていく充実感も同時に味わうことができました。この経験・蓄積が今の自分を支えてくれています。院生のみなさん、くじけそうになることがあるかも知れませんが、未来を信じて、がんばってください。

キーワード /Keywords

【修士論文】 【指導】 【国際法】

法哲学特別研究I【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、法哲学分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、法哲学分野について主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

法哲学特別研究I

授業の概要 /Course Description

研究者コースを履修する学生に、法哲学領域に関する修士論文の作成を指導し、修士論文の構想の確定を目指します。
その際、「専門基礎科目」や「専門科目」などの学習を通してこれまでに修得してきた、調査研究方法や分析能力、高度な専門知識や総合的観点をベースとして、自らが選択したテーマについて、研究を専門的に深化させていきます。論文の完成に向けて、邦語文献の検討だけでなく、外国語文献の読解・検討も行います。
授業で扱う具体的なテーマは、受講者の研究内容や問題関心に応じて決定します。

教科書 /Textbooks

テキストは、受講者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、受講者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示します。

法哲学特別研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに～ 修士論文とは
- 第2回 研究テーマ策定
- 第3回 研究方法の検討
- 第4回 先行研究の調査と基本文献・資料の選定
- 第5回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討①【邦語文献】
- 第6回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討②【外国語文献】
- 第7回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討③【データベース等の利用】
- 第8回 研究テーマに関連する報告と議論①【邦語一次文献】
- 第9回 研究テーマに関連する報告と議論②【邦語二次文献】
- 第10回 研究構想一次報告
- 第11回 研究構想一次報告の検討
- 第12回 研究構想一次報告の修正
- 第13回 研究テーマに関連する報告と議論③【外国語一次文献】
- 第14回 研究テーマに関連する報告と議論④【外国語二次文献】
- 第15回 1学期の進捗状況の確認と夏季休暇中の課題の確認
- 第16回 夏季休暇中の研究進行状況の確認
- 第17回 基本文献の再選定
- 第18回 邦語一次文献についての報告
- 第19回 邦語一次文献についての議論
- 第20回 邦語一次文献報告への論評
- 第21回 邦語二次文献についての報告・議論・論評
- 第22回 外国語一次文献についての報告
- 第23回 外国語一次文献についての議論
- 第24回 外国語一次文献報告への論評
- 第25回 外国語二次文献についての報告・議論・論評
- 第26回 修士論文で利用する文献についての中間総括的報告と議論
- 第27回 修士論文の構想報告
- 第28回 修士論文の構想報告についての議論
- 第29回 修士論文の構想報告の修正
- 第30回 2学期の進捗状況の確認と2年次の課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回で扱う予定の文献がある場合は、それを事前にきちんと読み、理解した上で質問を考え予習しておいてください。授業の後は、今回の資料等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。
 専門基礎科目の「法律文献調査」では、文献調査の方法や引用の仕方なども学びますので、しっかりと習得して下さい。
 なお、外国語文献の読解に必要な英語力は、当然の前提として要求されます。それに加えて、専門として扱う分野によっては、ドイツ語などの第二外国語の習得が必要になる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主体的に研究に取り組む姿勢を尊重したいと考えています。

キーワード /Keywords

法哲学 研究指導 修士論文

私法領域特定課題研究I【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 他

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【専修コース(法律学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	高度専門職業人として活躍するために必要とされる私法分野の専門的・実務的知識を修得している。
技能	○	学部での学習または社会人経験に基づき、私法分野における特定課題を深く掘り下げて研究できる分析能力・思考能力を身につけている。
態度	◎	高度専門職業人または高度な知的素養を有する人材として、地域社会でリーダーシップを発揮できる主体性を有する。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

私法領域特定課題研究I

授業の概要 /Course Description

この科目は、「専修コース」の院生を対象に特定課題研究完成にむけた指導を行うことを目的として開講しています。指導の詳細は院生と相談の上決定します。初回ガイダンスには必ず出席してください。

教科書 /Textbooks

各担当指導教員から指示があると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当指導教員の紹介する文献を参照してください。

私法領域特定課題研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 集団指導教員、指導内容の相談
- 2回 代表指導教員による指導 - 研究テーマ、研究内容の検討
- 3回 代表指導教員による指導 - 研究方法の検討、基本文献・資料の選定
- 4回 代表指導教員による指導 - 研究指導計画策定（テーマ別分担指導内容決定）
- 5回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する研究内容確認、基本文献・資料の収集
- 6回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本文献・資料の精読
- 7回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本文献・資料を用いた研究報告
- 8回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関係文献・資料の収集
- 9回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関係文献・資料の精読
- 10回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本判例の精読
- 11回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本判例の検討
- 12回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関連判例の精読
- 13回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関連判例の検討・整理
- 14回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関するこれまでの研究成果のまとめ、残された課題の確認
- 15回 代表教員による指導 - テーマ①に関する進捗状況の確認と夏季休暇中の作業の確認
- 16回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する研究内容確認、基本文献・資料の収集
- 17回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本文献・資料の精読
- 18回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本文献・資料を用いた研究報告
- 19回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関係文献・資料の収集
- 20回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関係文献・資料の精読
- 21回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本判例の精読
- 22回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本判例の検討
- 23回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関連判例の精読
- 24回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関連判例の検討・整理
- 25回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関するこれまでの研究成果のまとめ、残された課題の確認
- 26回 代表指導教員による指導 - テーマ①及び②に関する研究の進捗状況と今後の作業内容の確認
- 27回 代表指導教員による指導 - 基本文献・資料による補充指導
- 28回 代表指導教員による指導 - 関係文献・資料による補充指導
- 29回 代表指導教員による指導 - 関係判例による補充指導
- 30回 代表指導教員による指導 - 研究成果の取りまとめと次年度に向けた作業内容の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な取り組み・・・10% 特定課題研究成果・・・90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生が主体的に取り組むのであれば研究成果は得られません。研究計画に沿って、自ら積極的に報告するとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告に当たってはレジメを作成してください。報告報告者以外の方も判例や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公法領域特定課題研究I【夜】

担当者名 重松 博之 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	地域社会で中核的な役割を担うべき高度専門職業人にふさわしい公法分野の専門的・実務的知識を修得している。
技能	○	関心を持った公法分野の特定課題を深く掘り下げて研究するための批判的分析能力・論理的思考能力を身に付けている。
態度	◎	自立した高度専門職業人、高度で知的素養のある人材として、地域社会の中でリーダーシップを発揮する積極的・主体的な行動力を有する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

公法領域特定課題研究 I

授業の概要 /Course Description

この授業は、専修コースの大学院生が特定課題研究を完成させるための指導を行うことを目的とする。

授業においては、受講者の関心領域と問題意識に応じて特定課題論文を作成することを通して、高度専門職業人または高度で知的な素養のある人材として活躍し得る水準に到達することを目標とする。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心領域に応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス
- 2 回 特定課題研究とは何か
- 3 回 関心領域の確認
- 4 回 基礎的文献の選択(1 日本語文献)
- 5 回 基礎的文献の選択(2 外国語文献)
- 6 回 その他の文献の検討(1 判例等)
- 7 回 その他の文献の検討(2 その他)
- 8 回 テーマの確定
- 9 回 構想の検討(1 視角)
- 10回 構想の検討(2 構成)
- 11回 構想の検討(3 結論)
- 12回 使用文献のまとめ(1 主要文献)
- 13回 使用文献のまとめ(2 その他の文献)
- 14回 文献読解状況の報告と検討(主要文献序盤)
- 15回 文献読解状況の報告と検討(主要文献前半)
- 16回 文献読解状況の報告と検討(主要文献中盤)
- 17回 文献読解状況の報告と検討(主要文献後半)
- 18回 文献読解状況の報告と検討(その他の文献序盤)
- 19回 使用文献についての報告と検討(その他の文献前半)
- 20回 使用文献についての報告と検討(その他の文献後半)
- 21回 特定課題研究内容の報告と検討(序論)
- 22回 特定課題研究内容の報告と検討(第1章前半)
- 23回 特定課題研究内容の報告と検討(第1章後半)
- 24回 特定課題研究内容の報告と検討(第2章前半)
- 25回 特定課題研究内容の報告と検討(第2章後半)
- 26回 特定課題研究内容の報告と検討(第3章前半)
- 27回 特定課題研究内容の報告と検討(第3章後半)
- 28回 特定課題研究内容の報告と検討(第4章以下)
- 29回 全体のまとめ(結論)
- 30回 全体のまとめ(総合)

公法領域特定課題研究I【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な取り組み... 10% 特定課題研究成果... 90パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前に、該当回の内容を事前に把握し予習しておくこと。授業の後は、配付資料等をもとに、内容を整理し、復習を行うこと。また、自己の関心領域に合わせて文献、資料等を収集し、整理しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策調査法【夜】

担当者名 /Instructor 政策科学科教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解		
技能	◎	地域社会の諸課題（または特定の政策課題）について、政策を立案・評価（または実践的に提言）するために必要な情報を収集・分析することができる。
態度	○	研究者（または高度専門職業人）として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、政策分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

政策調査法

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから大学院で研究する学生が、大学院で研究するに際して必要となる（研究の）方法論、調査方法、修士論文執筆のために知っておくべき基本的な知識を提供することにある。大学院での研究といっても、政策科学系の学生は、学生の専門によって方法論等が異なるため、講義は指導教員を中心とした集団指導体制で行うことを予定している。

教科書 /Textbooks

教科書は第一回目の講義において担当教員等が指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、各回ごとに教員が紹介する予定であるが、とりあえず以下のものを挙げておく。

- 伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）。
- 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）。
- 松田憲忠・竹田憲史『社会科学のための計量分析入門-データから政策を考える-』（ミネルヴァ書房、2012年）。
- 真淵勝監訳『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』（勁草書房、2004年）。
- ユージン・バーダック(著)、白石賢司他(翻訳)『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ-』（東洋経済新報社、2012年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入
2. いかにして政策を研究するのか
3. 先行研究と文献リストの作成
4. リサーチ・クエスションをたてる
5. 仮説をたてる
6. 資料やデータを収集する
7. 仮説を検証する
8. 政策を提言する
9. 論文の書き方
10. 定量的分析と定性的分析
 - 1 1. 定量的分析(1)-調査票の作成
 - 1 2. 定量的分析(2)-サンプリングについて
 - 1 3. 定性的分析(1)-聞き取り調査
 - 1 4. 定性的分析(2)-参与観察法
 - 1 5. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価は、毎回の授業における報告及び授業貢献度（60%）と学期末のレポート（40%）による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策調査法 【夜】

履修上の注意 /Remarks

それぞれの回の授業担当者の指示に従って授業の準備をしておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政学I【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、行政学分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

行政学 I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義は、特に欧米の最新の行政学の文献を読み、行政学の展開を学ぶ。原則、テキストを輪読し、行政学の基本的内容を身につけた上で、議論を行う。

教科書 /Textbooks

B Guy Peters, Tero Erkkilae, Patrick von Maravić, 2015, Public Administration: Research Strategies, Concepts, and Methods, Routledge.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 行政学の概観
- 第3回 Introduction: Studying Public Administration
- 第4回 Power (テキスト第1章)
- 第5回 Structure (テキスト第2章)
- 第6回 People (テキスト第3章)
- 第7回 Roles (テキスト第4章)
- 第8回 Decisions (テキスト第5章)
- 第9回 Ideas (テキスト第6章)
- 第10回 Corruption (テキスト第7章)
- 第11回 Change (テキスト第8章)
- 第12回 Problems and Strategies (テキスト第9章)
- 第13回 テキストを巡る議論【行政学の進展を巡る議論】
- 第13回 テキストを巡る議論【方法論などについて】
- 第14回 日本の行政学の最新の文献
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末論文・・・80%、講義参加積極度・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

輪読において、事前準備は必須の作業である。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

行政学I【夜】

キーワード /Keywords

行政学、官僚制

行政学Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、行政学分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

行政学Ⅱ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

近年、ガバナンスやパートナーシップといった概念が行政学では定着しつつある。これは政府と民間諸組織とが協力して政策過程を進めていくことを含意するものである。そこにはいわば組織間関係が発生することになるが、そうした関係は自然に発生したり、うまく作動したりするものでなく、関係形成を促したり、関係をマネジメントしたりすることが必要である。そうした分析手法ないしマネジメント手法として欧米で近年注目されている"boundary spanning" (境界連結) に着眼した研究を読み、最新の議論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

Williams, P., 2012, Collaboration in Public Policy and Practice: Perspectives on Boundary Spanners, The Policy Press.
山倉健嗣 (1993) 『組織間関係論-企業間ネットワークの変革に向けて』有斐閣。
田尾雅夫 (2015) 『公共マネジメント』有斐閣。
森裕亮 (2016) 「官民関係研究と境界連結概念」『同志社政策科学研究』。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 組織間関係と境界連結概念【山倉 (1993)】
- 第3回 官民関係と境界連結概念【田尾 (2015) ほか】
- 第4回 Introduction【Williams 第1章】
- 第5回 Policy context: Intra and intersectoral Collaboration【Williams 第2章】
- 第6回 Structure and agency【Williams 第3章】
- 第7回 The role and competencies of boundary spanners【Williams 第4章】
- 第8回 Challenges in the boundary spanning role【Williams 第5章】
- 第9回 Learning from the private sector【Williams 第6章】
- 第10回 We are all boundary spanners now?【Williams 第7章】
- 第11回 Implications for policy and practice【Williams 第8章】
- 第12回 Reflections and conclusion【Williams 第9章】
- 第13回 Williamsの議論【境界連結概念】
- 第14回 官民関係分析の枠組みとしての可能性【森 (2016)】
- 第15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・80%、講義参加の積極性・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回1章分の予習と準備が必要です。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

行政学II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

他の欧米の文献も予習ではいっぱい読みましょう。

キーワード /Keywords

組織間関係、組織論、行政学、境界連結

政治思想史I【夜】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、政治思想史分野の知識を修得する。
技能	○	社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

政治思想史I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

政治思想史Iでは、政治思想史の研究に必要な知識の習得を図ります。また、歴史的に展開されてきた政治思想が、現代の問題や政治理論とどうかかわるのかも考察していきます。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治思想史研究の方法
- 第2回 古代政治思想の概観
- 第3回 古代ギリシア政治思想I【プラトン：国家】
- 第4回 古代ギリシア政治思想II【プラトン：ノモス】
- 第5回 古代ギリシア政治思想III【アリストテレス：倫理学】
- 第6回 古代ギリシア政治思想IV【アリストテレス：政治学】
- 第7回 古代から中世へ：その歴史的展開
- 第8回 中世政治思想概観
- 第9回 中世政治思想I【アウグスティヌス：神の国】
- 第10回 中世政治思想II【アウグスティヌス：告白】
- 第11回 中世政治思想III【トマス・アクィナス：神学大全】
- 第12回 中世政治思想IV【トマス・アクィナス：暴君放伐論】
- 第13回 中世末期の政治思想I【マルシリオ・パドヴァ：平和の擁護者】
- 第14回 中世末期の政治思想II【マルシリオ・パドヴァ：人民主義】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定された課題を事前を読むこと。また授業後には、討議した論点をまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史II【夜】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、政治思想史分野の知識を修得する。
技能	○	社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

政治思想史II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

政治思想史IIでは、政治思想史の研究に必要な知識の習得を図ります。また、歴史的に展開されてきた政治思想が、現代の問題や政治理論とどうかかわるのかも考察していきます。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中世ヨーロッパからルネサンスへ
- 第2回 ルネサンスの政治思想I 【マキャベリ：君主論】
- 第3回 ルネサンスの政治思想II 【マキャベリ：ディスコルシ】
- 第4回 共和主義の流れ
- 第5回 宗教改革期の政治思想
- 第6回 近代の政治思想I 【ホッブス：哲学の体系】
- 第7回 近代の政治思想II 【ホッブス：リヴァイアサン】
- 第8回 近代の政治思想III 【ロック：認識論】
- 第9回 近代の政治思想IV 【ロック：統治論】
- 第10回 近代の政治思想V 【ルソー：人間不平等起源論】
- 第11回 近代の政治思想VI 【ルソー：社会契約論】
- 第12回 民主主義への省察
- 第13回 危機の時代の政治思想
- 第14回 戦後の政治思想
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定された課題を事前を読むこと。また授業後には、討議した論点をまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論I【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、途上国の開発分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

途上国開発論I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

1990年代以降、開発途上国はグローバル化の影響を受け、政治的、経済的、社会的に大きく変わってきている。貧困といわれていたアフリカ諸国に多くの天然資源が発掘され、資源マネーを生み出している。アジア地域は大半の国々ではGDPを毎年7%以上上昇させている。大都市の建築物の様相はこの間、建設ラッシュのために一変した。このようにダイナミックに動く途上国の動きを開発学の視点からとらえるのが本授業の目的である。この経済的な動きはすべての国民を満足させたわけではない。経済的格差が余計に拡大したともいわれるように、貧困層での貧困の質・量も変わってきた。本授業ではその部分にも触れてみたい。その事例対象にはバングラデシュを選びたい。

教科書 /Textbooks

- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
- * Ministry of Environments & Forests, Bangladesh ~ Capacity Development Action Plan, 2007, Govt of Bangladesh

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * Diana Mitlin & David Satterthwaite, Urban Poverty in the Global South - Scale and nature, Routledge, 2013
- * 松井範惇 & 池本幸生編『アジアの開発と貧困』明石書店、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目標と概要説明
- 2回 途上国における開発・発展概念とは? ~ 経済発展
- 3回 貧困の計測
- 4回 社会開発
- 5回 開発研究の鳥瞰図
- 6回 人間開発
- 7回 国際移動
- 8回 都市問題
- 9回 農村問題
- 10回 ガバナンス
- 11回 バングラデシュの経済状況
- 12回 バングラデシュの都市と農村
- 13回 世界に散らばるバングラデシュ人労働者
- 14回 バングラデシュの廃棄物問題と社会配慮
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...40%、レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

途上国開発論I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語の読解力も身に着けるように努力してください。

キーワード /Keywords

貧困の計測、ガバナンス、人間開発、社会開発

途上国開発論II 【夜】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、途上国の開発分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

途上国開発論II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

開発途上国は、この間経済開発を急ぐあまり、深刻な環境問題に直面している。日本にも大きな影響を与えている中国大都市の大気汚染(PM2.5)、河川や海洋の水質汚濁、廃棄物問題や森林破壊などである。このような環境問題や貧困問題の解決の一方に環境教育やESD(持続可能な開発のための教育)がある。1990年代や今世紀に入って積極的に導入されてきた。本授業ではまず、環境問題の原因を探り、そのあと環境教育やESDの理論的解釈、さらにはその奏功について吟味する予定である。

教科書 /Textbooks

- * 日本環境教育学会編『環境教育』教育出版、2012年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年
- * 阿部治・田中治彦編『アジア・太平洋地域におけるESD(持続可能な開発のための教育)の新展開』明石書店、2012年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 御代川貴久夫・関啓子編『環境教育を学ぶ人のために』世界思想社、2009年
- * 日本ホリスティック教育協会編『ホリスティック教育入門』せせらぎ出版、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業の目的と今後の内容	
2回 世界の環境問題～地球温暖化	【地球温暖化】
3回 世界の環境問題～生態系と生物多様性	【生物多様性】
4回 世界の環境問題～資源ごみ問題	【ごみ問題】
5回 世界の環境問題～食料・水	【食料】
6回 環境教育とは ?	【環境教育】
7回 環境教育の歴史と倫理	【倫理】
8回 環境教育の目的と方法	【目的と方法】
9回 環境教育計画の作り方(アクティビティを含む)	【アクティビティ】
10回 環境教育からESDへの移行	【ESD】
11回 ESDの歴史と概念	【歴史】
12回 ホリスティック教育の登場	【ホリスティック教育】
13回 途上国の環境教育とESD ～ インド編	【ESDとインド】
14回 途上国の環境教育とESD ～ 中国編	【ESDと中国】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...30%、小課題...20%、レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

環境教育やESDに関してはある程度の理論が確立されようとしている。しかし、他の学問に比べ、少し、捉えづらい個所もある。したがって、配布された資料を読み、授業で学習したことを復習し、その理論的な支柱をおぼえるようにして欲しい。授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。

途上国開発論II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ESDや環境教育の知識を獲得すると同時に、スキルも学んでください。

キーワード /Keywords

ESD、環境教育、地球温暖化、インド・中国

産業政策論I【夜】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、都市の産業政策の知識を修得する。
技能	○	都市の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

産業政策論I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

人口減少社会、加速化するグローバル競争、地域格差の拡大が進む中、地域経済を支えるこれまでの地域産業政策は転換を余儀なくされている。地域の持続的な発展に向けて、地域のポテンシャルを踏まえた適切な産業政策の展開が求められる一方、地域社会との共創性も看過できない。

産業政策論I、IIでは、地域経済が直面する現状と課題を概観した後、地域経済の活性化とはどのようなことなのか、企業・地域の成長戦略における場所の意味は何か、地域の総合的な発展に向けてどのような政策代替案があるのかといった論点について、具体的な事例を交えながら検討していく。なお、受講者が少人数の場合、ゼミ形式で行います。

教科書 /Textbooks

- 中村良平[2014]『まちづくり構造改革』日本加除出版
- 川端基夫[2008]『立地ウォーズ』新評論

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 藤井正他[2014]『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
- その他、講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 事例分析 - 大都市近郊都市における人口変化と地域経済
4. 産業構造の変化と地域経済の課題 - ものづくり産業の衰退
5. 地域経済の課題 - 商店街の衰退
6. 地域社会の課題と社会的事業
7. 地域産業政策の変遷 - 国土計画を軸として
8. 地域経済の活性化と産業構造
9. 地域内経済循環と経済波及効果
10. 企業成長と立地戦略、立地創造
11. 産業立地の集中化と分散化
12. 産業集積と企業行動 - ものづくり産業と商業を事例に
13. 産業空洞化と地域産業政策の転換
14. 新産業創出と地域産業政策の再構築
15. 地方自治体の産業政策 - まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点50%、課題レポート50%をベースに、授業への参加姿勢により加点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

産業政策論I【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業外学習として、講義内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備するようにしてください。
- ・ 授業計画は進捗状況に応じて、変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、深刻化する地域経済を支える今後の産業政策のあり方について、受講生と議論をしたいと考えています。幅の広い視点や柔軟な発想を持った受講生を歓迎します。

キーワード /Keywords

産業政策論II 【夜】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、都市の産業政策の知識を修得する。
技能	○	都市の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

産業政策論II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

産業政策論IIでは、社会的課題の解決に向けて新たな主体として台頭した社会的企業や、地域づくり活動と連動しながら展開する地域ビジネスに焦点をあてる。とりわけ、後者は人口減少による地方消滅の危機が迫る中、地方創生、地域活性化との関連で注目を集めている。

本講義では、かかる新しい経済主体や活動が、都市マネジメントなどで注目を集めるパートナーシップ政策と巧みに連動しながら展開していることに注目し、地域資源を活用した事例分析を中心としながら、その本質と政策展開に関する議論を行いたい。なお、受講者が少人数の場合、ゼミ形式で行います。

教科書 /Textbooks

・宮副健司[2014]『地域活性化マーケティング』同友館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・風見正三[2009]『コミュニティビジネス入門』学芸出版社
・藤井敦史他編[2013]『闘う社会的企業』勁草書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要 (社会的企業)
2. 地域課題をビジネスで解決する - 社会的企業の台頭
3. 社会的企業の類型と事例
4. 社会的企業とパートナーシップ政策(1) - ガバナンスとパートナーシップ
5. 社会的企業とパートナーシップ政策(2) - 市民協働事業の事例
6. 社会的企業を支える制度(1) - 社会的事業の経営課題
7. 社会的企業を支える制度(2) - 資金調達とスキル・ノウハウの提供
8. 社会的企業の事例研究(院生発表) (地域ビジネス)
9. 地域ビジネスの特性と事例
10. 地域資源の戦略的活用
11. 地域ビジネスのマーケティング
12. 地域ビジネスのマネジメントと担い手
13. 地域ビジネスの展開事例(1) - 商店街活性化
14. 地域ビジネスの展開事例(2) - 創作活動による地域の価値創造
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

産業政策論II【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業外学習として、講義内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備するようにしてください。
- ・ 無断欠席、理由のない遅刻は減点します
- ・ 授業計画は進捗状況に応じて、変更する場合があります

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、社会的企業論と地域ビジネス論を専門としております。
多彩な事例をもとに、新しい経済主体と活動について読み解いていきますので、多角的な主体が参画する地域づくりに関心を持ち、積極的な学習意欲のある学生を歓迎します。

キーワード /Keywords

公共政策論I【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、公共政策分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

公共政策論I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を研究するうえで必要となる基本的な理論や分析方法を身につけることにある。講義の詳細の内容については、本講義の履修者との議論で決めたいと考えている。本学期は公共政策を考える上で必要となる理論や方法論について触れてある文献を多角的視点から輪読したいと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』(有斐閣、2011年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにした。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

- 第1回 導入
- 第2回 公共政策とは何か
- 第3回 公共政策学の系譜
- 第4回 公共政策のアクター
- 第5回 アジェンダ設定理論
- 第6回 政策問題の構造化
- 第7回 公共政策の手段
- 第8回 公共政策規範
- 第9回 公共政策の決定と諸理論
- 第10回 公共政策の実施
- 第11回 公共政策の評価
- 第12回 政策決定とアイデア
- 第13回 公共政策のガバナンス
- 第14回 公共政策とソーシャルキャピタル
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(プレゼンテーションを含む) ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基本書の輪読では、担当箇所について必ずレジユメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

公共政策論I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論II【夜】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、公共政策分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

公共政策論II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を多角的に分析・考察することを通じて、公共政策の基本的研究方法を身につけることにある。

本講義履修者との議論によって講義の詳細は決定したいと考えているが、今学期は、都市部の「限界コミュニティ」の問題や単身世帯急増など最先端の問題を取り上げ議論できればと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

芳賀祥泰編著『福祉の学校-安全・安心・快適な福祉国家を目指して-』(エルダーサービス、2010年)。

藤森克彦『単身世帯急増社会の衝撃』(日本経済新聞社、2010年)。

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』(東京大学出版会、2011年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにしたい。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

- 第1回 導入
- 第2回 現代日本の公共政策とそのポイント(1)-少子高齢社会
- 第3回 現代日本の公共政策とそのポイント(2)-人口減少社会の到来
- 第4回 現代日本の公共政策とそのポイント(3)-巨額の財政赤字
- 第5回 現代日本の公共政策とそのポイント(4)-単身世帯の急増
- 第6回 現代日本の公共政策とそのポイント(5)-格差社会
- 第7回 限界集落とは何か
- 第8回 限界集落と事例研究
- 第9回 限界集落の再生
- 第10回 都市の限界コミュニティ
- 第11回 北九州市の局地的高齢化と限界コミュニティ
- 第12回 限界コミュニティの再生
- 第13回 フードデザート、買い物難民(弱者)とは?
- 第14回 買い物難民(弱者)の対策
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(プレゼンテーション等も含む)... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

公共政策論II【夜】

履修上の注意 /Remarks

基本書の輪読等では、担当箇所について必ずレジユメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉政策論I【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、福祉政策分野の知識を修得する。
技能	○	社会保障の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

福祉政策論I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

行政や公共政策の領域を中心に、社会福祉サービスや社会保険、福祉国家を扱った図書・学術論文を講読します。福祉政策や福祉国家の現状と課題を議論するのはもちろんですが、現実の福祉政策や福祉国家に対して「学術研究はどうあるべきなのか?」「どのような論文が良き学術論文なのか?」など、研究の意義や方法論についても受講生と共に議論していきたいと思えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 理論編①自由と平等
- 第2回 理論編②政府の役割
- 第3回 理論編③福祉国家の類型
- 第4回 社会保険編①年金【年金財政悪化】
- 第5回 社会保険編②年金【空洞化】
- 第6回 社会保険編③年金【世代間格差】
- 第7回 社会保険編④年金【世代内格差】
- 第8回 社会保険編⑤医療【国民皆保険】
- 第9回 社会保険編⑥医療【医療サービスの量】
- 第10回 社会保険編⑦医療【医療サービスの質】
- 第11回 社会保険編⑧医療【混合診療】
- 第12回 生活保護①【保護の決定】
- 第13回 生活保護②【最低生活水準】
- 第14回 ペーシック・インカム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100% 欠席1回につき5点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

福祉政策論I【夜】

キーワード /Keywords

特になし。

福祉政策論II 【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、福祉政策分野の知識を修得する。
技能	○	社会保障の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

福祉政策論II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

行政や公共政策の領域を中心に、社会福祉サービスや社会保険、福祉国家を扱った図書・学術論文を講読します。福祉政策や福祉国家の現状と課題を議論するのはもちろんですが、現実の福祉政策や福祉国家に対して「学術研究はどうあるべきなのか?」「どのような論文が良き学術論文なのか?」など、研究の意義や方法論についても受講生と共に議論していきたいと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会福祉サービスとは
- 第2回 社会福祉サービスの行政
- 第3回 社会福祉サービスの財政
- 第4回 介護保険の保険料・保険給付
- 第5回 介護保険のサービス
- 第6回 介護保険の課題
- 第7回 児童福祉のサービス
- 第8回 保育所改革
- 第9回 児童虐待への対応
- 第10回 障害者の定義
- 第11回 障害者福祉のサービス
- 第12回 障害者の就労支援①【一般就労】
- 第13回 障害者の就労支援②【福祉的就労】
- 第14回 地域福祉
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100% 欠席1回につき5点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

福祉政策論II【夜】

キーワード /Keywords

特になし。

環境政策論I【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、環境政策の知識を修得する。
技能	○	地域の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

環境政策論I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

社会問題の増加に伴い、政府の役割やその政策に関する議論も増加の傾向にある。このような議論のなかで、比較政治研究や比較制度分析論は、制度、アクター、アイデア、時間などを分析概念とし、各国の政策過程やその相違について分析している。授業では、このような分析概念、比較研究方法論などについて議論し、関連知識を取得する。

政府機能・比較制度分析に関する知識の取得。

①政府機能・役割に関する論文や著作を読んで議論する。

②制度論と比較研究について議論する。

専門知識の活用能力を高める。

①制度論と比較研究に関する知識を活用する。

②レポートや論文などで応用し、分析してみる。

教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、「政府の失敗」「比較制度」に関する著作、論文を読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』(伊藤修一郎著 東京大学出版会 ¥2,940)

『比較政治制度論』(建林 正彦、曾我 謙悟、待鳥 聡史著 有斐閣アルマ ¥2,100)

『比較政治経済学』(新川敏光、井戸正伸、宮本太郎、真柄秀子著 有斐閣アルマ ¥2,310)

その他、制度論、The Principal-Agent Model やGame Theory 関連の論文や著作。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 関連書籍や議論の紹介。
- 第2回 政策リサーチ入門I【理論と推論】
- 第3回 政策リサーチ入門II【因果関係と変数】
- 第4回 政策リサーチ入門III【研究の問いとデータ】
- 第5回 比較政治経済学I【理論】
- 第6回 比較政治経済学II【比較政治】
- 第7回 比較政治経済学III【拒否権等の事例】
- 第8回 公共部門の経済学IV【政策失敗：官僚、予算】
- 第9回 比較政治制度論I【制度論】
- 第10回 比較政治制度論II【比較分析】
- 第11回 比較政治制度論III【比較一環境事例】
- 第12回 Game Theory 関連論文の議論。
- 第13回 Game Theory やThe Principal-Agent Model 関連論文の議論。
- 第14回 The Principal-Agent Model やガバナンス関連論文の議論。
- 第15回 まとめ。
- その他 論文のコピーを配布する。

環境政策論I【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの報告 (60%) 議論 (40%) 。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。
事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政府機能、政府役割、政府失敗、制度、アクター

環境政策論II 【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、環境政策の知識を修得する。
技能	○	地域の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

環境政策論II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

環境問題：地球規模の環境問題、気候変動と農業・災害・都市の生活基盤との関係、福島事故と災害の問題など。
環境政策：温暖化対策、エネルギー政策、リスク管理政策などについての理解と専門知識の取得。

以上の内容、他のテーマに関する内容を研究する。

- ①環境問題や環境政策を理解するため、論文や著作を読んで議論し、理解力を高める。
- ②環境政策の形成過程を分析する理論的視座について勉強し、その議論を深める。

専門知識の活用能力を高める。

- ①環境政策の形成に関する専門的知識を応用する。
- ②環境政策の事例を取り上げ、分析してみる。

教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、環境問題や環境政策に関する論文、著作を読んで議論する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『環境経済学』(宮本憲一著、岩波書店、¥3,990)
- 『環境社会学』(船橋晴俊著 成文堂 ¥2,700)
- 『再生可能エネルギーの政治経済学』(大島堅一著 東洋経済新報社 ¥3,990)
- 『環境問題の社会史』(飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310)
- 『脱原子力の運動と政治-日本のエネルギー政策の転換は可能か』(本田 宏著 北海道大学図書刊行会 ¥6,300)

その他 英文、 リスク管理関連の論文のコピーを配布する。また、視聴覚資料 (youtube、DVD) を参考する。

環境政策論II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容と本の説明、紹介。
- 第2回 環境問題の社会史【人間生活と環境】
- 第3回 環境問題の社会史【環境問題と社会史】
- 第4回 環境経済学【環境問題と経済学】
- 第5回 環境経済学【政策手段】
- 第6回 環境経済学【自律協定と排出取引権】
- 第7回 【温暖化問題】
- 第8回 【エネルギーイシューと論点】
- 第9回 【原子力と再生エネルギー】
- 第10回 【再生可能エネルギーの政治学】
- 第11回 【再生可能エネルギーの経済学】
- 第12回 【脱原子力の運動と政治】
- 第13回 【リスク管理政策】
- 第14回 アメリカでの研究、考察
- 第15回 海外での研究、考察、授業の総括

その他、論文や資料を読み、議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

議論と報告 (70%)、レポート (30%) で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

政策過程論、環境政策を受講すること。
論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。
参考文献を参照し、事前に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「環境」というのは、単なる自然環境ではなく、人間生活を可能とするミナモトであり、人間と社会経済との関係をつなぐ媒介でもあります。環境は、人々の考え方、文化、そして制度によって異なる現象であります。「環境」の在り方を見つめることは、「社会構成原理」や「人間社会の在り方」を見つめることにもなります。このような議論の一つが「持続可能な」社会でしょう。「環境」を考えることは、「今」・「ここ」という我々の生活に限定されない次世代に渡るコミュニケーションでもあります。

キーワード /Keywords

人間生活と社会経済、制度、関係、アクター、利益、費用と便益、政策過程

政策評価論I【夜】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、評価論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

政策評価論I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献(日本語および英語・主に理論)を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行う。受講生は2回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表する(パワーポイント等を用いてもよい)。報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担う。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがある。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで授業に参加、議論に貢献することを強く求める。なお、受講生の研究報告を学期中に少なくとも2回は行ってもらう予定である。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 古川俊一・北大路信郷(2004)『新版公的部門評価の理論と実際』日本加除出版
- 小塩隆士(2012)『効率と公平を問う』日本評論社
- スティーブン P.ロビンズ[高木晴夫訳](2009)『新版組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講生の研究報告【研究テーマの確認】
- 3回 文献輪読【理論・実証の整理】
- 4回 文献輪読【分析手法の検討】
- 5回 文献輪読【評価論の整理・検討】
- 6回 文献輪読【評価方法の整理・検討】
- 7回 文献輪読【行政組織と行政評価】
- 8回 受講生の研究報告【リサーチ・クエスチョン】【仮説】
- 9回 文献輪読【行政評価システム導入状況の確認】
- 10回 文献輪読【欧米諸国における行政評価の先進事例研究】
- 11回 文献輪読【日本の地方自治体における行政評価の先進事例研究】
- 12回 文献輪読【日本の中央省庁における行政評価の先進事例研究】
- 13回 文献輪読【現行評価システムに対する批判的考察】
- 14回 文献輪読【現行評価システムの改善策の検討】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策評価論I【夜】

履修上の注意 /Remarks

特段必要なことはありません。随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたいうでの議論ができればと思っています。研究報告は、学年を問わず最低2度は行ってもらう予定です。

2016年度に限り、国内研修で1学期不在のため、2学期開講（「政策評価論II」とのペア開講）になります。

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策評価論II 【夜】

担当者名 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、評価論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

政策評価論II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献(日本語および英語・主に実証分析)を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行う。受講生は2回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表する(パワーポイント等を用いてもよい)。報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担う。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがある。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで授業に参加、議論に貢献することを強く求める。なお、受講生の研究報告を学期中に少なくとも2回は行ってもらう予定である。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- キャロル・H・ワイス(2014)『入門評価学:政策・プログラム研究の方法』日本評論社
- 古川俊一・北大路信郷(2004)『新版公的部門評価の理論と実際』日本加除出版
- 松田憲忠・竹田憲史(2012)『社会科学のための計量分析入門:データから政策を考える』ミネルヴァ書房
- 小塩隆士(2012)『効率と公平を問う』日本評論社
- 赤井伸郎(2006)『行政組織とガバナンスの経済学:官民分担と統治システムを考える』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講生の研究報告【研究テーマの確認】【先行研究の紹介】
- 3回 文献輪読【理論・実証の整理】
- 4回 文献輪読【分析手法の検討】
- 5回 文献輪読【評価論の整理・検討】
- 6回 文献輪読【評価方法の整理・検討】
- 7回 文献輪読【評価における統計的分析】
- 8回 受講生の研究報告【リサーチクエスト】【仮説】
- 9回 文献輪読【行政評価システム導入状況の確認】
- 10回 文献輪読【日本の地方自治体を中心とした行政評価の先進事例研究】
- 11回 文献輪読【外部評価制度の事例研究】
- 12回 文献輪読【外部評価制度の問題点】
- 13回 文献輪読【現行評価システムに対する批判的考察】
- 14回 文献輪読【現行評価システムの改善策の検討】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

政策評価論II【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特段必要なことはありません。随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたいうでの議論ができればと思っています。研究報告は、学年を問わず最低2度は行ってもらう予定です。

2016年度に限り、国内研修で1学期不在のため、「政策評価論I」とのペア開講（どちらも2学期開講）になります。授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較政治経済学Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、比較政治経済学分野の知識を修得する。
技能	○	社会・経済の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

比較政治経済学Ⅰ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は主に次: 経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。また、違う政策が経済パフォーマンスや人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。さらに、これらの政策の相違はいかなる要因によって産まれるのかを考察する(諸国の政治経済体制の種類、経済状況、価値観、政党間競争、労使関係など)。また、資本・貿易や経済の国際化の制約が、諸国の政策にいかなる影響を与えるかを検証する。

*比較政治経済学「I・II」と「III・IV」の違いは、「III・IV」では「I・II」で学んだ知識を基礎にしてそれを発展させるとともに上記問題についてより深く掘り下げて分析する。

*比較政治経済学IIとの違いは、Iは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してIIはIの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。

教科書 /Textbooks

Anton Hemerijck, Changing Welfare States (Oxford: Oxford University Press, 2013).

(なぜ英語のテキストを使うのかなど私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにしたプレゼンテーション・検証・質疑応答を行い、学生と教員が互いに理解を深める。すべての学生は毎週、指定されたテキストを事前に読み終えて授業に臨む。

1. イントロ; 2. 問題定義: 経済成長、平等、福祉国家; 3. 福祉国家の進化・適応; 4. 福祉国家をめぐる政治経済; 5. 社会福祉政策が直面する21世紀の問題; 6. 福祉国家の変化・改革; 7. 福祉政策の調整; 8. 福祉国家の効果・影響—経済成長、生産性の成長; 9. 福祉国家の効果・影響—雇用、失業、長期失業; 10. 福祉国家の効果・影響—所得分配、格差、貧困; 11. 福祉国家の自律的持続性; 12. 投資的福祉政策—教育、労働訓練; 13. 投資的福祉政策—家族支援、再分配; 14. 小括; 15. まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が40%、(2)研究論文あるいは期末総合テストが60%(どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に決める。研究論文の場合、研究の内容は、テキストや授業で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと:(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストを行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

比較政治経済学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

比較政治経済学II 【夜】

担当者名 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、比較政治経済学分野の知識を修得する。
技能	○	社会・経済の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

比較政治経済学II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを、実証データやケースに重点を置いて検証する。(比較政治経済学Iとの違いは、Iは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してIIはIの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。)政策問題にはたとえば下に記すようなものがあるが、各学生が研究関心がある問題を選び、その問題解消のため有効・無効な政策のデータを検証してもらい、クラス全体で政策の有効性、いかなる政策がいかなる問題に応用されるべきかを検証する。(政策問題の例:失業、貧困、教育、経済格差、男女格差、人口減少、低出生率、経済停滞、医療政策、福祉政策、財政政策)

*比較政治経済学「I・II」と「III・IV」の違いは、「III・IV」では「I・II」で学んだ知識を基礎にしてそれを発展させるとともに上記問題についてより深く掘り下げて分析する。

教科書 /Textbooks

各学生が選ぶ政策問題にかかわる文献を随時学期中に選んで指定する。ただ比較政治経済学Iで使用するテキストは広い範囲の問題を扱い、役に立つので、IIを履修する前か履修の学期中に読むことが望ましい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

比較政治経済学II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生の調査・研究・考察の結果をもとに、プレゼンテーションや質疑応答、討論を通して、政策問題を検証する。毎週の具体的なトピックは、第1・2週の授業の中で相談の上決める。

1. 導入
2. 問題設定
3. 運営計画策定
4. 報告I [トピックは例えば、経済成長、雇用、失業、貧困、経済格差、教育政策、労働市場政策、再分配政策、家族支援政策、社会保障政策、医療政策、他の福祉政策、財政政策などから]
5. 考察、批評、提言I
6. 報告II [トピックは例えば、経済成長、雇用、失業、貧困、経済格差、教育政策、労働市場政策、再分配政策、家族支援政策、社会保障政策、医療政策、他の福祉政策、財政政策などから]
7. 考察、批評、提言II
8. 報告III [トピックは例えば、経済成長、雇用、失業、貧困、経済格差、教育政策、労働市場政策、再分配政策、家族支援政策、社会保障政策、医療政策、他の福祉政策、財政政策などから]
9. 考察、批評、提言III
10. 報告IV [トピックは例えば、経済成長、雇用、失業、貧困、経済格差、教育政策、労働市場政策、再分配政策、家族支援政策、社会保障政策、医療政策、他の福祉政策、財政政策などから]
11. 考察、批評、提言IV
12. 中間報告
13. 考察、批評、提言
14. 再分析、再考察、最終作業I
15. まとめ

*Topics vary, depending on the interests of students.

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) 授業参加における積極性や質が40%、(2) 調査・研究の結果をまとめた論文が60%。研究には学期を通して従事する。研究の内容は、各学生が選ぶ政策問題を分析・考察するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究、論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。また、学期半ばに研究の計画書を提出する。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

自治体政策論I【夜】

担当者名 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、自治体政策論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

自治体政策論I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

今年度の「自治体政策論I」は、「環境と福祉の政策学」というテーマで行います。

血管に動脈と静脈があり、その循環によって人間の体が成り立っているのであれば、自治体や国家という政体にも、動脈政策と静脈政策があると言えるのではないでしょうか。この授業では、環境政策と福祉政策という、二つの静脈政策を取り上げながら、自治体政策の中でのそれらの位置づけと意義について検討したいと考えています。

最初は、市民による政策構想についての授業を行い、次に、環境政策と福祉政策との関連について主として議論を進めていきたいと思っています。

もちろん、受講生の修士論文との関係を重視しますので、上記のような内容を前提としながら、受講者と相談して、内容や進め方を決めていきたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストに関する受講者の要望があれば、相談の上、その要望に従ってテキストを決めたいと考えています。

受講者の要望がない場合は、広井良典『「環境と福祉」の統合』(有斐閣、2008年)の内容を中心に議論を展開します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、毎回の授業で提示しますが、たとえば、

広井良典『生命の政治学』(岩波書店、2003年)(○)

中道寿一『未来をデザインする政策構想の政治学』(福村出版、2014年)などがあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容に関する受講者の要望がない場合、一応、以下のように進める予定です。

第1回 開講の辞 進め方についての説明

第2回 市民による政策構想の意義について(1)【夢見る能力、政策価値、政策型思考、政策構想】

第3回 市民による政策構想の意義について(2)【政治のデザイン、社会デザイン構想、諸価値の共生】

第4回 動脈政策と静脈政策について(1)【静脈政策としての環境政策】

第5回 動脈政策と静脈政策について(2)【静脈政策としての福祉政策】

第6回 エコロジーと福祉国家

第7回 持続可能な福祉国家 / 福祉社会

第8回 生命の政治学

第9回 定常型社会

第10回「環境と福祉」の統合について(1)【緑地福祉学、環境療法】

第11回「環境と福祉」の統合について(2)【持続地帯、サステイナブル・シティ】

第12回「環境と福祉」の統合に向けての政策(1)【持続可能な福祉社会、ベーシック・インカム】

第13回「環境と福祉」の統合に向けての政策(2)【気候変動・年金税制改革構想】

第14回「環境と福祉」の統合に向けての政策(3)【脱生産主義的福祉国家構想】

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的取組(何度か討論を行い、発表をしてもらいます) 20%

発表に伴うレポート作成(2回) 30%

最終のまとめのレポート 50%

以上を総合的に評価します。

自治体政策論I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

できるだけ受講生の修士論文のテーマと関連づけながら議論を進めたいので、講義中でも積極的に意見交換をしたいと考えています。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に勉強しましょう。

キーワード /Keywords

静脈、環境、福祉

行政学特別研究I 【夜】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、行政学分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、行政学分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

行政学特別研究I

授業の概要 /Course Description

行政学に関する修士論文の指導を行うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講生との相談で決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生との相談で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回論文に慣れる【論文を集める】
- 第3回論文に慣れる【論文のスケルトンをつかむ】
- 第4回論文に慣れる【論文を読む】
- 第5回論文に慣れる【まとめ】
- 第6回リサーチクエストを立てる【リサーチクエストとは】
- 第7回リサーチクエストを立てる【論文のリサーチクエストを見定める】
- 第8回リサーチクエストを立てる【修論のリサーチクエストを見定める】
- 第9回リサーチクエストを立てる【まとめ】
- 第10回自分の論文のスケルトンに挑戦する【スケルトンとは】
- 第11回論文を読む【外国文献を集める】
- 第12回論文を読む【外国文献を読む】
- 第13回論文を読む【外国文献のスケルトンをつかむ】
- 第14回論文を読む【外国文献のまとめ】
- 第15回先行研究の重要性【リサーチクエスト】
- 第16回行政学の先行研究【著書を繙く】
- 第17回行政学の先行研究【論文を繙く】
- 第18回先行研究から文献リストをつくる【文献スタイルの講義】
- 第19回リサーチ方法についての検討【方法論の講義】
- 第20回専門文献の読解【文献①西尾勝行政学】
- 第21回専門文献の読解【文献②今村都南雄行政学】
- 第22回専門文献の読解【文献③村松岐夫行政学】
- 第23回専門文献の読解【文献④中堅行政学者の文献】
- 第24回専門文献の読解【文献⑤Guy Peters等の文献】
- 第25回自分の修士論文のスケルトンに挑戦する【スケルトンブラッシュアップ】
- 第26回修士論文内容の報告【第1回、スケルトンをごちゃりさせよう】
- 第27回報告で不足分の文献読解【分析対象の基礎文献】
- 第28回修士論文内容の報告【いい感じに仕上げよう】
- 第29回報告で不足分の文献読解【分析対象の発展文献】
- 第30回修士論文に向けての注意【リサーチクエストのブラッシュアップ】

行政学特別研究I 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な参加・・・50%、毎回の準備・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論特別研究I 【夜】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、途上国の開発・発展分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	途上国の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策的な観点から説得力のある議論を展開し、途上国の開発・発展分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

途上国開発論特別研究 I

授業の概要 /Course Description

日本社会や経済は開発途上国や新興国の存在なくしてはもはや語ることはできません。双方はグローバル化の中で深く強い関係を築いています。したがって、開発途上国や新興国の開発や環境の状況を把握しておくことは日本や世界の今後の方向性を考える上で非常に重要になってきます。

本授業では、受講生が主役となって開発途上国や新興国を取り上げ、その経済、社会、政治を調べ、それに伴う環境問題の発生状況をつかみ、当該国での環境教育やESDのあり方を把握することに努め、それらを研究論文にいかす努力をしてもらいます。その際、スタディ・ツアーやまなびとESDステーションの様々なESDプロジェクトの体験学習を通して現実のESDや環境教育を学習する予定です。

教科書 /Textbooks

- * 安藤明之『社会調査・アンケート調査とデータ解析』日本評論社、2009年
- * 日本環境教育学会編『環境教育』教育出版、2012年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * エコピブル支援協議会編『環境活動ハンドブック』日本能率協会マネジメントセンター、2007年
- * 斎藤文彦編『参加型開発』日本評論社、2002年
- * 小川潔、伊東静一、又井裕子編『自然保護教育論』筑波書房、2008年
- * Ghosh G.K., Environmental Pollution~ascientific Dimension, Ashish Publishing House, Delhi, 2011

途上国開発論特別研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要説明
- 2回 修士論文とは何かを考える
- 3回 受講生によるテーマの設定
- 4回 対象・方法論の確定
- 5回 各受講生の論文構想発表1と議論【インド】
- 6回 各受講生の論文構想発表2と議論【ダカ市】
- 7回 各受講生の論文構想発表3と議論【環境教育】【ESD】
- 8回 調査方法を考える
- 9回 各受講生の調査方法と内容の発表1と議論【インド】
- 10回 各受講生の調査方法と内容の発表2と議論【ダカ市】
- 11回 各受講生の調査方法と内容の発表3と議論【環境教育】
- 12回 各受講生の調査方法と内容の発表4と議論【ESD】
- 13回 事例学習：インドの環境問題と環境教育の実態
- 14回 事例学習：バングラデシュ・ダカ市の廃棄物管理
- 15回 事例学習：北九州市監島プロジェクト
- 16回 各自の調査結果報告1と議論【インド】
- 17回 各自の調査結果報告2と議論【ダカ市】
- 18回 各受講生の調査結果報告3と議論【環境教育】
- 19回 各自の調査結果報告4と議論【ESD】
- 20回 各受講生の論文に必要な文献資料紹介1と議論【インド】
- 21回 各受講生の論文に必要な文献資料紹介2と議論【ダカ市】
- 22回 各受講生の論文に必要な文献資料紹介3と議論【環境教育】
- 23回 各受講生の論文に必要な文献資料紹介4と議論【ESD】
- 24回 中間講評
- 25回 各受講生の研究発表1と議論【インド】
- 26回 各受講生の研究発表2と議論【ダカ市】
- 27回 各受講生の研究発表3と議論【環境教育】
- 28回 各受講生の研究発表4と議論【ESD】
- 29回 環境教育・ESD研究に関する議論
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度 ... 40% 小課題 ... 10% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書は事前に必ず読み、授業に臨むことです。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が主役なので未来に残したくなる授業にしたい。

キーワード /Keywords

環境教育、ESD、まなびとESDステーション

公共政策論特別研究I【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、公共政策分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	研究者として地域社会の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策的な観点から説得力のある議論を展開し、公共政策について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

公共政策論特別研究 I

授業の概要 /Course Description

公共政策もしくは地域公共政策の論文指導を行う。具体的には、テーマの選定からリサーチ・クエスションのたてかた、及び仮説のたてかた、さらに量的分析・質的分析の説明から論文執筆に際して注意すべき点、引用注の付け方まで、順を追って修士論文の作成の仕方について指導していく予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは、受講生と相談のうえ決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介します。

公共政策論特別研究I 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の研究の進捗状況にあわせてその都度決定していくが、とりあえずは以下のようなスケジュールで進める予定です。

- 第1回 導入
- 第2回 修士論文作成に際しての心得
- 第3回 テーマの選定について
- 第4回 リサーチクエスションをたてる
- 第5回 仮説をたてる
- 第6回 文献調査について(1)-図書館等の使い方
- 第7回 文献調査について(2)-邦語文献の収集
- 第8回 文献調査について(3)-外国語文献の収集
- 第9回 第一次文献リストの作成
- 第10回 量的調査
- 第11回 質的調査
- 第12回 テーマの(仮)決定
- 第13回 論文の構成について
- 第14回 論文の書き方-引用注の付け方等について
- 第15回 論文の体裁についての指導
- 第16回 テーマ設定、調査方法などに関する論評及び修正
- 第17回 先行研究の検討
- 第18回 先行研究及び関連研究の検討
- 第19回 先行研究と自らの研究の検討(先行研究のどこを乗り越えるのか)
- 第20回 調査方法の検討
- 第21回 調査票等の作成
- 第22回 調査の設計
- 第23回 調査の実施
- 第24回 調査結果の整理
- 第25回 調査結果の報告
- 第26回 中間報告の準備
- 第27回 中間報告
- 第28回 中間報告の論評・修正
- 第29回 最終報告
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指示した箇所は必ず前もって検討しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉政策論特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、福祉政策分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	社会保障・社会福祉サービスの諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、福祉政策分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

福祉政策論特別研究I

授業の概要 /Course Description

社会保障をめぐる政治・行政・政策を研究内容とした修士論文を作成します。日本の社会保障制度の概要や主要論点を理解し、年金、医療、介護、保育、障害者福祉などを扱った先行研究をふまえたうえで、研究課題に取り組みます。

教科書 /Textbooks

受講生の関心にあわせて指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心にあわせて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 学術論文とは
- 第2回 社会保障に関わる理論を学ぶ
- 第3回 社会保障制度の理解
- 第4回 研究関心
- 第5回 研究テーマの選定
- 第6回 研究課題の設定
- 第7回 研究計画の作成
- 第8回 資料収集方法の検討
- 第9回 文献調査について
- 第10回 数量分析について
- 第11回 論文の書き方
- 第12回 引用・注釈について
- 第13回 先行研究を調べる
- 第14回 先行研究の分析
- 第15回 先行研究の意義と限界
- 第16回 研究課題の再検討
- 第17回 論文の構成
- 第18回 文献研究の報告
- 第19回 報告について
- 第20回 中間報告の準備
- 第21回 中間報告の実施
- 第22回 中間報告に関する意見交換
- 第23回 調査の設計
- 第24回 調査の実施
- 第25回 調査結果の整理
- 第26回 調査結果の報告
- 第27回 最終報告の準備
- 第28回 最終報告の実施
- 第29回 最終報告に関する意見交換
- 第30回 まとめ

福祉政策論特別研究I【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告・・・ 50% 期末レポート(修士論文中間報告)・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

環境政策論特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、環境政策についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策的な観点から説得力のある議論を展開し、環境政策について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

環境政策論特別研究 I

授業の概要 /Course Description

社会科学、政策研究の調査方法、データ収集、論理構成と論文の書き方の学習。
 ①レポートや論文作成に向けた調査方法、データ収集方法について勉強する。
 ②社会現象から、科学的事実、データ、社会的解釈、概念構成、価値などの論理構成について勉強する。
 ③論文の書き方と発表方法などについて知ってもらう。

専門知識の活用能力を高める。
 ①政策事例の選定と理解、知識を深める。
 ②受講者の研究テーマ、政策事例に関する調査を行い、レポート、論文を作成する。

教科書 /Textbooks

『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（伊藤 修一郎著 東京大学出版会 ¥2,940）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会科学のリサーチ・デザイン-定性的研究における科学的推論』（G.キング外著 真淵勝監修 勁草書房 ¥3,990）
- 『ケース・スタディの方法』（ロバートK.イン著、近藤公彦訳 千倉書房 ¥3,675）
- 『社会学研究法 リアリティの捉え方』（今田 高俊著 有斐閣アルマ ¥2,415）
- 『社会調査のための統計学 -生きた実例で理解する』（神林博史著 技術評論社 ¥2,079）

その他、受講者の研究テーマに合わせ、政策過程、環境関連の論文や著作を選定し議論する。

環境政策論特別研究I 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 紹介、関心テーマなどの共有
- 第2回 政策リサーチ入門：社会現象と科学
- 第3回 政策リサーチ入門：研究目的と設計
- 第4回 政策リサーチ入門：データ収集方法
- 第5回 社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究
- 第6回 社会科学のリサーチ・デザイン：科学的推論と仮説
- 第7回 社会科学のリサーチ・デザイン：歴史的方法と事例選定
- 第8回 社会学研究法 リアリティの捉え方：価値と事実
- 第9回 社会学研究法 リアリティの捉え方：研究方法の選定と設計
- 第10回 社会学研究法 リアリティの捉え方：調査方法
- 第11回 社会調査のための統計学：回帰分析
- 第12回 社会調査のための統計学：重回帰分析
- 第13回 社会調査のための統計学：相関分析
- 第14回 ケース・スタディの方法：単一研究
- 第15回 ケース・スタディの方法：比較研究
- 第16回 ケース・スタディの方法：単一方法の事例
- 第17回 ケース・スタディの方法：比較事例：環境
- 第18回 ケース・スタディの方法：比較事例：他事例
- 第19回 関連論文の考察：量的研究の事例
- 第20回 関連論文の考察：量的研究
- 第21回 関連論文の考察：質的研究
- 第22回 関連論文の考察：質的研究の事例
- 第23回 関連論文の考察：単一事例研究
- 第24回 関連論文の考察：比較歴史研究
- 第25回 関連論文の考察：比較研究
- 第26回 受講者の研究テーマ関連の論文：問題意識
- 第27回 受講者の研究テーマ関連の論文：方法論
- 第28回 受講者の研究テーマ関連の論文：論文構成と論理
- 第29回 受講者の研究テーマ関連の論文：討論と結論
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論と報告（80%）、レポート（20%）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リアリティの捉え方、リサーチ・デザイン、科学的推論、仮説と仮説検証、論理構成と社会的解釈、政策事例。

比較政治経済学特別研究I【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、比較政治経済学分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	社会・経済の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策的な観点から説得力のある議論を展開し、比較政治経済学分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

比較政治経済学特別研究I

授業の概要 /Course Description

比較政治経済、比較政策の分野における修士論文の指導をする。

教科書 /Textbooks

論文作成者の研究分野に合う文献を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文作成者の研究分野が判明するまでなし。

比較政治経済学特別研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文作成者の研究課題に適切な文献のリストを第1回目の指導の際に決め、論文作成者は文献のリビューを即時始める。それがある程度終わった後、研究のためのデータ収集・作成・分析を始め、毎授業で文献、データ、分析について討議する。それがある程度進んだら、同時進行で研究分析を行い、執筆にとりかかる。

1. イントロ
2. 問題定義: 経済成長と平等
3. 成長と平等II (応用)
4. 資本主義経済の諸類型
5. 雇用・失業の様態
6. 雇用・失業の様態II (応用)
7. 雇用保護・解雇規制と雇用
8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差
9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II (応用)
10. 福祉政策、所得再分配、経済成長
11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II (応用)
12. 福祉国家の縮小とデータ
13. 福祉国家の縮小とデータII (応用)
14. 小括
15. まとめ
16. 導入
17. 問題設定
18. 運営計画策定
19. 報告I [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
20. 考察、批評、提言I [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
21. 報告II [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
22. 考察、批評、提言II [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
23. 報告III [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
24. 考察、批評、提言III [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
25. 報告IV [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
26. 考察、批評、提言IV [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
27. 中間報告
28. 総合的考察、批評、提言
29. 再分析、再考察、最終作業I
30. 最終作業II、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

上記の内容・スケジュールの事柄をどれだけよく遂行しているかによって総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

地域政策特定課題研究I【夜】

担当者名 榎原 真二 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【専修コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	高度専門職業人として活躍するために必要な、地域政策分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の特定の政策的課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を実践的に提言することができる。
態度	◎	高度専門職業人として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、地域政策分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域政策特定課題研究I

授業の概要 /Course Description

地域公共政策、NPO、市民参加等に関する論文(特定課題研究)の指導を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じて、適宜紹介する。

地域政策特定課題研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画・内容は、受講生によって異なる。以下はあくまで一つの例として示した授業計画である。

- 第1回 導入
- 第2回 論文作成の基本的作業について
- 第3回 テーマを決める
- 第4回 先行研究の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 リサーチ・クエスチョンをたてる
- 第7回 仮説をたてる
- 第8回 ケース・スタディ(1)-ケース・スタディとは何か
- 第9回 ケース・スタディ(2)-どのような時にケース・スタディを使うのか
- 第10回 ケース・スタディ(3)-政策過程研究とケース・スタディ
- 第11回 ケース・スタディ(4)-まちづくりとケース・スタディ
- 第12回 ケース・スタディ(5)-比較研究とケース・スタディ
- 第13回 ケース・スタディ(6)-公共政策研究とケース・スタディ
- 第14回 ケース・スタディ(7)-ケース・スタディにおけるすぐれた事例研究の検討
- 第15回 1学期のまとめ

- 第16回 質的調査と量的調査
- 第17回 質的調査(1)-フィールドワーク
- 第18回 質的調査(2)-聞き取り調査
- 第19回 質的調査(3)-参与観察法
- 第20回 調査票を作成する
- 第21回 サンプルングについて
- 第22回 量的調査の実施と分析方法
- 第23回 クロス表を作成する
- 第24回 統計的検定について
- 第25回 実際に調査を設計する
- 第26回 調査をまとめる
- 第27回 論文の構成について
- 第28回 引用注、参考文献リスト等について
- 第29回 推敲の必要性について
- 第30回 年間講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず、次に発表する部分のレジユメの作成等を行って講義にのぞんでいただきたい。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較政策特定課題研究I【夜】

担当者名 三宅 博之 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【専修コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	実践指向型市民、NPO職員や公務員としての活動の基盤となる、様々な政策の比較・分析といった分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	特定の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	高度専門職業人として政策学的な観点から議論を展開し、様々な政策の比較・分析といった分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較政策特定課題研究 I

授業の概要 /Course Description

様々な政策の学習は政策研究者にとって重要なことです。同時に、ある特定の政策を立案したとしても、それが他の国家や地域に適合するかはわかりません。そこには当該国を規定する様々な要素、すなわち、政治体制、経済構造・制度、社会構造、宗教の役割など多々異なっているからです。

本授業では、特定の政策と国・地域の関係を受講生にとらえてもらい、整理した上で発表ならびに論文執筆を促したいと考えています。指導教員によって多少異なりますが、政策分野に関わる様々なプロジェクトにも時々参加し、実践から政策実施過程をを検証します。

教科書 /Textbooks

黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション～日本語の場合、英語の場合』中央公論新社、2013年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、資料を配布する予定です。

比較政策特定課題研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要説明
- 2回 比較政策についての議論
- 3回 様々な政策分野の紹介と特定の政策の理解
- 4回 様々な地域・国々の特徴の紹介と理解
- 5回 受講生の研究対象としての政策と地域・国の選択 1【中国】
- 6回 受講生の研究対象としての政策と地域・国の選択 2【インド】
- 7回 受講生の研究対象としての政策と地域・国の選択 3【韓国】
- 8回 受講生の研究対象としての政策と地域・国の選択 4【日本】
- 9回 事例研究：北九州市藍島とトンヨン市ヨンデ島比較
- 10回 調査方法論の学習と議論 ①文献調査
- 11回 調査方法論の学習と議論 ②観察調査
- 12回 調査方法論の学習と議論 ③聞き取り調査
- 13回 調査方法論の学習と議論 ④標本調査
- 14回 受講生の調査方法論の選択と発表 1【中国】【インド】
- 15回 受講生の調査方法論の選択と発表 2【韓国】【日本】
- 16回 事例研究：インドの環境教育・ESDの現状と課題（教員）
- 17回 受講生の調査結果発表 1【中国】
- 18回 受講生の調査結果発表 2【インド】
- 19回 受講生の調査結果発表 3【韓国】
- 20回 受講生の調査結果発表 4【日本】
- 21回 事例研究：北九州市の子ども会の衰退（教員）
- 22回 受講生の研究論文中間発表 1【中国】
- 23回 受講生の研究論文中間発表 2【インド】
- 24回 受講生の研究論文中間発表 3【韓国】
- 25回 受講生の研究論文中間発表 4【日本】
- 26回 受講生の研究論文最終発表 1【中国】
- 27回 受講生の研究論文最終発表 2【インド】
- 28回 受講生の研究論文最終発表 3【韓国】
- 29回 受講生の研究論文最終発表 4【日本】
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...40%、論文...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

論文を執筆するために必要な方法や内容に関する配布物を毎回読み、理解して論文に反映させるようにしてください。
 授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習し、それを論文にいかにかせるかを考えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文作成のために備けられた時間であるので、不明な点などはどしどし自ら調べると同時に、授業で話してください。

キーワード /Keywords

比較政策、地域・国、調査方法論